

高文連

第 2 号

山口県高等学校文化連盟

島文連

第 2 号

も く じ

あいさつ.....	山口県高等学校文化連盟会長 繁富 健治… 1
山口県高等学校文化連盟各部門の報告と記録	
器楽・管弦楽部門.....	2
合唱部門.....	4
吹奏楽部門.....	5
マーチングバンド・パトントワーリング部門.....	10
日本音楽部門.....	14
吟詠・剣詩舞部門.....	16
演劇部門.....	18
囲碁部門.....	21
美術・工芸部門.....	22
書道部門.....	26
写真部門.....	29
山口県高等学校文化連盟自主事業一覧.....	31
第14回全国高等学校総合文化祭記録.....	32
全国高等学校総合文化祭参加校一覧、第14回・第15回(山口県高文連).....	34
慶尚南道親善訪問文化交流演奏会.....	35
参考資料	
第5回全国高等学校文芸コンクール都道府県別応募状況一覧.....	38
詩部門〈最優秀賞〉受賞作品.....	40
全国高等学校文化連盟基本調査.....	41
第15回全国高等学校総合文化祭開催要綱.....	44
全国高文連専門部の各都道府県所属一覧.....	45
山口県高等学校文化連盟平成元年度、2年度決算書・平成3年度予算書.....	46
山口県高等学校文化連盟役員一覧表.....	48
全国高文連の歌.....	50
編集後記.....	51

ごあいさつ



山口県高等学校文化連盟

会 長 繁 富 健 治

山口県高等学校文化連盟が発足して、今年は5年目を迎えます。日頃から地道な芸術文化活動が続けている生徒諸君のひたむきな精進と、先生方の熱心な御指導、更には関係各位の御尽力とによって、毎年着実な歩みを刻んできました。その主な活動については、毎年度末にホームルーム用壁新聞「高文連会報」によって報告しておりますが、昨年からの活動のすべてを集録するために、機関誌「高文連」を刊行することになり、このたびその第2号をお届けする運びになりました。

平成2年度の事業として、本連盟は(1)県総文祭実施事業(2)全国総文祭参加事業(3)芸術鑑賞自主事業(4)国際交流事業に取り組んできましたが、皆様方のお力添えによって、それぞれの事業で大きな成果を収めることができました。心から厚くお礼申し上げます。

昨年6月16日、岩国市民館で華々しく開催された開幕式典に始まった県高校総合文化祭では11部門すべての参加のもと、県内6会場で、日頃の文化活動の成果を十分に発表することができ、高校生はじめ多くの県民の皆様方から激励と賞賛の言葉をいただいております。

全国総合文化祭は8月の猛暑の中、山梨の地で開かれました。「はばたけ創造の翼 いま山梨の空へ」というテーマのもと、全国から1万4千人の高校生が集い、山口県からも17校235人が参加しました。高校生によるさわやかな大会運営が印象的でしたが、それとともに、外国の高校生も含めた若者の溢れるエネルギーに圧倒される思いでした。

一般生徒への還元事業としての芸術鑑賞会は、4種類で12校を巡回しましたが、いずれの学校においても好評をいただいたところであります。

国際交流事業は本連盟としては最初の事業で、今回は韓国慶尚南道に合唱・日本音楽部門から代表71名を派遣しました。去る3月27日、慶尚南道昌原市内のKBS放送総局公開ホールに集まった1,800人の高校生たちとの間で行った交歓演奏会は、正に感動の連続でした。1年間積み重ねた団員の苦労が結実した思いでした。

平成3年度の活動はすでにスタートしました。わが山口県高文連の一層の発展充実を目指して、お互いの努力と精進とはいわずもがなのことではありますが、県教育委員会をはじめ、関係機関の皆様方や、平素から高校生の文化活動に深い理解を寄せていただいている広汎な県民の皆様にも、今後とも変わらぬ御支援をお願い申し上げます。ごあいさつといたします。

山口県高等学校文化連盟各部門の報告と記録

器楽・管弦楽部門

理事長 松 永 忠 雄

(下関南高等学校)

平成2年度の第12回山口県高等学校総合文化祭開幕式典、および高文連音楽関係部門による各高校の発表・演奏は、6月16日・17日の両日、岩国市民会館のステージにおいて行なわれました。器楽・管弦楽部門にはオーケストラ4校、ギター、マンドリン合奏3校、弦楽合奏1校の出演があり、多数の参加があった吹奏楽部門(49校)に混じって一服の清涼剤ともいえる立派な演奏を披露して、大会を盛り上げました。

しかしなんといっても、例年行なわれている開幕式典でのコーラスとオーケストラによる慶

祝演奏(曲目“ハレルヤ”“大地讃頌”)は圧巻で岩国市民会館のステージいっぱいとなった出演高校生の若い、力強いサウンドがホール全体に響き渡りました。200名を越える混声合唱と60数名で編成されたオーケストラによる合同演奏はスケールが大きく、式典当日の朝だけという短時間の練習にもかかわらず、福田 望先生(岩国高校)の情熱溢れる指揮によるその演奏は聴衆に深い感銘を与えたことは勿論のこと、出演生徒も大いなる感動を体験しました。

一方、第14回全国高等学校総合文化祭(山梨



第12回山口県高等学校総合文化祭 開幕式典

大会)には、この部門から山口県代表として、下関第一高校が参加出演しました。以下はその報告です。

全国高総文祭山梨大会の思い出

下関第一高校教諭 百合野政美

「はばたけ 創造の翼 いま 山梨の空に」
夢溢れるこのスローガンを胸に、山梨への旅が始まった。真夏日の船とバスを利用した4泊5日の大旅行である。生徒にとっては修学旅行に匹敵するほどの思い出深い旅行となるであろう。総員45名を乗せたバスは、快調に甲斐の国甲府へと走って行った。前夜の船旅の疲れもあろうが、車内は静かで、どの生徒の顔も日頃より幾分引き締まっているように見える。晴れのステージを明日に控えた緊張感のせいであろうか。私の胸中も明日の全国大会のステージで発表できる喜びと不安とが交錯する。これまでの一年間を振り返ってみると、いろいろな事があった。クラブを軌道修正する為の部員の大幅削減。良い新入部員を獲得する為の勧誘作戦。弦楽器の各パートを毎日のように音取り練習させた美術教室。「やれるだけの事はやった」旅の間、自分の心にそう言い聞かせていた。甲府への道のりは長かった。宿に着いたのは時刻7時すぎ、大阪での渋滞の影響で4時間遅れの到着である。予定していた前日のリハーサルと顧問会議、交流会の参加は断念せざるを得なかった。

8月3日、本番の日の朝を迎えた。快晴であるが、待望の富士山は姿を見せない。管弦楽の会場は白根町桃源ホールである。その名の通り、理想郷を思わせるような高原に美しいホールが見えた。温和で親切な地元の人々が、私達を歓迎してくれた。

我が校の発表曲「未完成第一楽章」は低弦にウエイトがかかっており、始まりから音取り、運弓のむずかしい曲である。最後まで音の取れなかったチェロの嬰へ音は指板に白いマジックで目印を付けて本番に備えた。ステージを終え、



反省点も多いが、練習通りの演奏ができたのではないと思われる。「よくやったと思います」講師講評の第一声が会場に響いた。この1年間の苦勞が体から消えて行くような気がした。講評はまだ続いた。第二テーマのチェロのボーイングの工夫。私の指揮法の悪い所。それに最後の講評はよいみやげ話となった。「未成交響曲は、先ず指揮者がロマンチストでないと駄目、先生がもっとロマンチストになって、恋愛などこれからも体験しなさい」といった内容で、帰校してこの録音を職員室で聞かせたところ、爆笑となった。ステージが終り、やっと他校の演奏がきける時間が持てた。我が校と同程度の編成から100名を越える大編成の団体まで、熱のこもった演奏が展開された。どの団体も素晴らしい。実際に耳で聴き、目で視る。こんなに良い学習の場は又とないであろう。来て良かった。沢山の事が勉強できた。我が校のオーケストラを育てよう。生徒の中に溶け込んで一歩一歩築いて行こうと、この時、心に誓い、現在、実行に移している。

最後に、この器楽・管弦楽部門では独自の行事として、この3月28日に同じく岩国市民会館で、第10回器楽・管弦楽スプリングコンサートを開催します(昨年より高文連の器楽・管弦楽部門主催)。管弦楽、ギター、マンドリン、弦楽合奏のほか、リコーダー合奏も含めて多くの高校の参加が望まれています。

合唱部門

理事長 中尾綾子

(宇部中央高等学校)

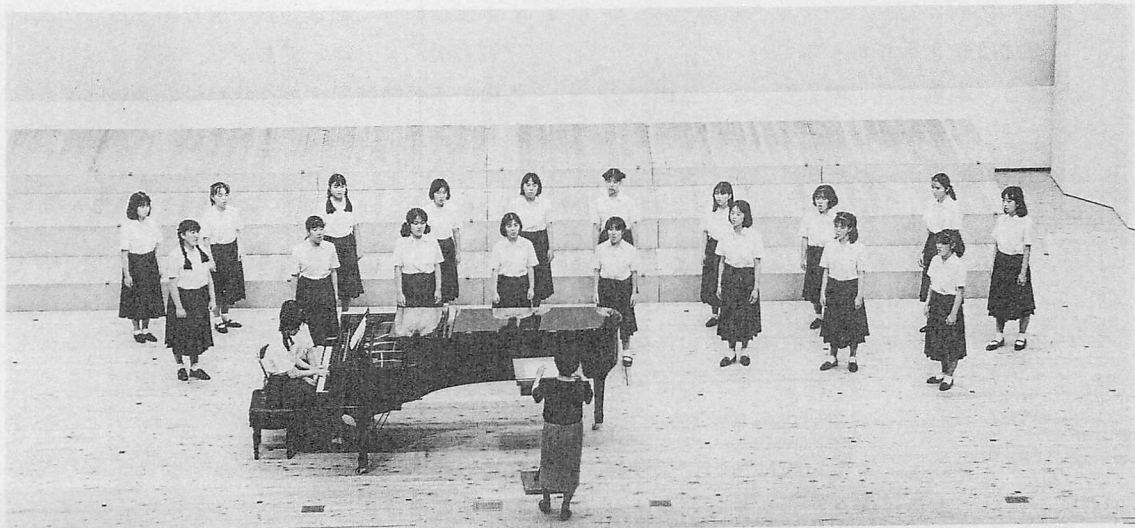
岩国市で開催された総文祭には、例年と同じく器楽・管弦楽部門のオーケストラといっしょに「大地讃頌」「ハレルヤ」の演奏をした。毎年同じ曲ではあるが、生徒にとっては常に新鮮な感動をよぶ曲のようだ。参加校は岩国、安下庄、高水、熊毛北、防府、野田、萩、宇部、宇部中央、香川の10校330名である。多くの学校に参加してもらったことはとても喜ばしいことである。

全国高総文祭は防府高校が出場し、郷土の詩人・中原中也の詩によるオリジナル曲を演奏し好評だった。全国レベルでの各地の演奏にふれることによって、参加した生徒たちにもよい経験になったことと思う。来年度は宇部中央高校が出場する予定である。合唱部会最大の行事は、3月25日～29日に予定されている国際交流事業、韓国慶尚南道への親善訪問である。127名の希望者の中から2年生を中心とした56名のメンバーを岩国、防府、野田、萩、宇部、宇部中央、香

川の7校から選んだが希望者が多くいたにもかかわらず、いろいろな事情でかなえることができなかったことを大変心苦しく、残念に思っている。現在は、合唱の練習はもちろんのこと、日韓の歴史やことばや習慣などについても勉強し、日韓の親善や相互理解に役立てようと生徒ともども努力している。

演奏曲目は日本音楽と合同で「荒城の月」、日韓の合同演奏の「ハレルヤ」や、韓国のうた「サランヘ」や「故郷の春」などを含む11曲を予定している。

1月15日には文化庁と高文連主催の合唱講習会を催し、合唱指揮者 関屋 晋先生を講師として発声や音楽づくりなど、暖かくエネルギー的な指導をしてもらった。高校生や合唱指導に携わっている者にとって、大変有意義な会であったと思う。



第12回山口県高等学校総合文化祭 宇部中央高等学校

吹奏楽部門

理事長 重 広 昭 雄

(防府高等学校)

平成2年度の県高校総文祭音楽部門は、岩国高校を主管校として、盛大に開催することができました。大会運営に御尽力を賜りました岩国地区の関係者各位に心からお礼を申し上げます。

さて、高文連吹奏楽部会の主な事業は、例年開催地の生徒によるモデルバンド編成と全国高総文祭吹奏楽部門への出場です。

今回は、実際に体験されたお二人の先生方に、モデルバンドの編成と全国高総文祭出場についての報告をお願いいたしました。準備から本番までの経緯が詳細に記録されていますので、次回からの吹奏楽部会事業振興の参考にしていただきたいと思います。

岩国地区合同バンドを指揮して

岩国高等学校教諭 藤本 博途

第12回山口県高等学校総合文化祭の開幕式典のファンファーレと慶祝演奏のための岩国地区合同バンドを結成することが決まったのは4月の末だった。しかし問題も多くあった。岩国地区で吹奏楽部を持つ高校…岩国、岩国商業、岩国工業、岩陽、広瀬、高森、高水…の7校のうち岩陽、広瀬以外の5校が音楽以外の教科の教師が顧問をしており、さらに岩国高の私を含めて岩国工業、岩陽、広瀬、高森の5校の先生が、転勤して1～2年目ということで高文連音楽部会との連絡の不徹底や不慣れさで、当初は本当にできるだろうかという不安でいっぱいだった。さらに6月3日の岩国高校音楽3部合同演奏会も控えており、準備までには多忙を極めた。

幸い、水産高校から広瀬高校へ転勤してこら

れたばかりの檜原先生が前々年度の萩での資料をすべて保管しておられ、それをまねての合同バンド作りとなった。檜原先生には本当にお世話になった。広瀬からわざわざ岩国まで出てきてもらって一緒に打ち合せをし、二人とも帰宅が午前2時、3時になることもあった。お互いに新婚なので早く家に帰りたいという気持ちを抑えての強行軍だった。

まず最初はメンバー集めだ。岩国地区各校の顧問にお願いの電話を入れる。とにかく一人でも多くの生徒を出そうという考えだ。各校からメンバー表が提出されたのは5月半ばだった。岩国高66名、岩国商22名、岩陽10名、高森17名、広瀬8名、高水29名、計152名が集まった。岩国工業は当日マーチングで慶祝演奏を行うということで、合同バンドには参加しなかったが、岩国地区の吹奏楽を県内中の人に聞いてもらおうという教師と生徒の思いがこの数字になったのだと思う。そして曲決め。高文連からの要望は『5分以内で祝典を盛り上げる華やかな曲』だった。私はA. リードの『吹奏楽のための演奏会用序曲 ヴィヴァ ムシカ』と決めていたが、総務から待たがかったり、またもっと簡単な曲をという意見もあったりして、選曲には苦労し悩んだ。生徒指揮が伝統だった岩国高に来て1年ばかりの私を勇気づけてくれたのは生徒たちだった。前年生徒から半ば強引に指揮棒を取り上げ、一時はバラバラになりかけた岩国高の生徒の言葉で私も決心した。『合同バンドの責任者は先生だから、先生の考えでやりましょう。』なぜか他校の生徒までが『ヴィヴァ ムシカ』が



いい、と私に言ってくる始末で、かくして曲が決定した。各校にスコア付きの楽譜1セットずつと模範テープ（とはいっても私が前任の高森高時代に演奏したもの）を送付し、先生方とにかく練習させて下さいとお願いした。次の問題は合同練習だ。やはり1回は合同練習をしないと不安だし、せっかく合同バンドを組んだ意味もない。日程は6月10日、つまり本番1週間前しかとれなかった。しかしこの日は岩国高校は模試の日なのだ。模試の日には音が出せないという決まりがある本校での練習は無理、御迷惑を承知で岩陽高校に会場を提供していただいた。転勤されたばかりの江田先生の御尽力で体育館、音楽室、普通教室をお借りすることができたのは本当にありがたかった。この合同練習で良かったことは、午前中のパート練習の時間、各パートに各校の先生方に1人ずつ、ついていただいたことだ。ほとんどの先生方は専門の楽器をお持ちではないので苦労されたが、生徒からみれば見知らぬ者同士のパート練習がスムーズに運んで良かったようだ。そして午後は合奏。ファンファーレを作曲された檜原先生にまず音取

りをさせていただいて、休憩後ヴィヴァムシカの練習をした。楽譜を送付するのが遅かったためか、とても音楽万歳と呼べるようなものではなかったが、それでも生徒達は一生懸命やってくれた。練習も終わりのころには和気あいあいとしてきて、生徒同士、生徒と教師のコミュニケーションもとれてきた。岩国地区の連帯感が生まれつつあるを感じた。残り1週間の各校での練習にすべてをかけて、さあ本番だ。

岩国市民会館の2階席を陣取っての大吹奏楽団は1階から見れば壮大であつたろう。11時、まず最初のファンファーレだ。曲がすばらしいこともあり、見事にまとまった。あとはヴィヴァムシカの成功を祈るだけだ。あいさつ、お祝いのことば、表彰と少しずつ予定時間をオーバーしてきている。時間内に開幕式典を終わらせないと、あとが大変なのだ。進行係責任者の檜原先生との打ち合せで、こういう場合は合同バンドの演奏のテンポを早くして少しでも時間を節約することにしていた。書道吟が終わりいよいよ合同バンドの出番だ。時計を見るとかなり時間がオーバーしている。生徒たちにサイン

を出して、テンポアップを指示した。それでなくても早いテンポの曲なのに大丈夫だろうか、不安がよぎる。ふと見るとすぐ近くに下関西高校の友永先生が生徒を数人連れていらっしゃる。『がんばってよ』の先生の声に勇気付けられるとともに、緊張の度合いも増した。祈る気持ちで指揮棒を振り始めた。1週間前の合同練習では楽譜ばかり追いかけていた生徒たちの目が、今日は全員が指揮棒を追いかけてくれている。合奏練習で指示した箇所も的確に吹いてくれている。152人の心が1つになって、5分かかる曲が3分30秒で終わった。おそらくこの1週間猛練習を積んだであろう生徒たちと、先生方の御苦労に感謝！ 本当に超多忙を極めたこの1か月の苦労が、吹き飛んでしまった。開幕式典後、感動でしばし2階席でぼう然としていたのは、私だけではなかったようだ。

全国高総文祭の報告

下関商業高校教諭 中村 芳喜

第14回全国高等学校総合文化祭・吹奏楽部門

は8月2日・3日の両日にわたって、今夏最高気温を記録した甲府市の山梨県民文化ホールにて盛大に開催されました。全国各地からの代表31校と地元山梨県の選抜合同バンドなど5団体の併せて37団体が出演し素晴らしい演奏が繰り広げられました。講師は地元山梨県出身の作曲家名取吾朗氏と武蔵野音楽大学の秋山紀夫氏。会場の文化ホールは外観、内装とも美しく洗練され、特にステージは奥行き、高さとも十分でよく響き、大変気持ち良く演奏することができました。

私達下関吹奏楽部は昨年の吹奏楽コンクール全国大会（東京：普門館）に続いての全国規模の大会への参加となり、喜びと不安の入り混じる中で練習を重ね、大会に臨みました。遠方への2泊3日の慌ただしい日程でしたが、部員一同心に残る素晴らしい体験をさせていただきました。高文連事務局をはじめご援助下さった皆様にこの誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。（参加経費につきましては半額を高文連から、そして残りの半額は昨年の全国大会出場の際に



第14回全国高等学校総合文化祭 吹奏楽部門 下関商業高等学校



いただいた寄付金から出させていただきました。
 そういう訳で生徒の個人負担はゼロでした。)以下、心に残ったことを幾つかあげて報告に代えさせていただきます。

大会はコンクールとは違って和やかな雰囲気の中ですすめられ、その背景には甲府の方々の暖かいお心遣いがありました。大会運営に当たられた役員の先生方や生徒さんはもちろんのこと、県民性もあるのでしょうか、一般の方々のご親切には大変感銘を受けました。宿泊したホテルは料金からは考えられないような立派なもので食事もおいしく、そして何よりも従業員の方々が親切で遠来の高校生たちに楽しい思い出を残してあげようという気持ちが伝わって来ました。また、部員の乗り合わせたタクシーの運転手さんは、会場までのわずかな時間でしたが甲府市の観光案内をしてくださり、運賃までサービスして下さったそうです。万事がこんな調子で、滞在した3日間は本当に気持ち良く過ごすことができました。

また、ホテルで同宿した学校の皆さんとの交歓も忘れ難い思い出です。広島県の可部高校と、青森県の八戸北高校の吹奏楽部の方々と一緒にいましたが、食事の時間でのお互いの紹介に始まり、ホテルのあちこちで語り合う生徒たちの姿は全総文祭ならではの光景でした。また、私個人も

広島市立沼田高校の笠岡先生や、鳥取県・米子北高の竹田先生と親しくなり、色々なお話をうかがえたことは大きな収穫でした。

参加校は北は北海道の室蘭清水丘高校から南は沖縄県立首里高校まで、まさに日本全国から代表が集まっています。私は代表者会議の関係で部員たちより一足早く甲府入りし演奏を聴きましたが、2日目は自分達の出演が終わりから3番目ということもあって、部員たちはほとんど他団体の演奏を聴くことができませんでした。せつかくの機会でしたのに残念でたまりません。

演奏された曲は、吹奏楽コンクールの課題曲はいけないということで、ほぼ全団体が自由曲とポップスカ、それぞれの地方の音楽(を素材としたオリジナル作品)を選んでいました。後者の例として、郡上節(岐阜県可児高)・祭幻想Ⅰ「由布」(大分雄城台高)・ヒシヤンヨー(佐賀民謡～佐賀県青陵高)・長崎県スポーツ行進曲(佐世保北・佐世保南合同)がありました。また、名取吾朗氏が第14回全総文祭のために作曲された、前奏曲「真青な空、若き情熱の炎」も山梨県選抜合同バンドによって演奏され好評を博していました。

さて、私達は8月3日、34番目の出演でした。甲府商業高校でのリハーサルを終えて会場入りしましたが、貸し切りバスではなかったので移

動に苦労しました。遠距離だからということで全行程をJRにしたのですが、途中からでも貸し切りバスにしておくべきでした。甲府商業と言えば、これは余談になりますが、ちょっと悔しい思いをしました。私達の校章を見た市民の方が「甲府商業のマークと同じですね」と言われたので、「山口県の商業高校ですよ」と答えたところ「宇部商ですか」と聞き返されたのです。やはり甲子園に出場する野球部の力は偉大です。

会場に着いてみると、かなりの団体が華やかなユニフォームを着用していて目を奪われます。また、楽器も良いものをそろえていて、いまだにペダルティンパニをもっていない私達はやや肩身の狭い思いをしました。(もっとも、山口県の高校でもハンドルのティンパニを使っているのは下商だけですが………昨年の普門館でもこのハンドル式ティンパニは前世期の遺物として異様な目でみられました)

演奏曲目は、大栗裕作曲の「吹奏楽の為の神話」と真島俊夫編曲の「オーメンズ・オブ・ラブ」。前日聴いた感じでは前列の木管の音が少し沈むようでしたので、バランスの指示をいつもより念入りにしてステージに臨みました。部員たちは長旅の疲れと進行の遅れに待ちくたびれたのか、少し緊張感に欠けていましたが、演奏を始めるといつもの集中力を取り戻し、推進力のある演奏ができました。1曲目は多少ミスはあったもののまずまずの出来で、演奏が終わると熱い拍手が返って来ました。部員たちの表情にも満足感が表れています。2曲目は大好きなポップスということもあって、軽快なテンポでノリのよい演奏になりました。会場の反応も上々ですぐに手拍子が加わり、それがますます演奏に熱を加えます。私は内心「もっとスタンドプレーや小道具など演出を考えて来るのだった………」などと思いながらご機嫌でした。会場の聴衆との一体感ほど嬉しいことはありません。そして演奏が終わるやいなや待ち構えていたような拍手。もう、幸せ一杯です。退場しながら部員たちも口々に「今日はよかった」「手拍子が

嬉しかったね」「こんなに会場と一体になれたのははじめて」と喜びあっています。

そして記念写真。下商の部員たちは写真が大好きです。全員で、パートで、3年生だけで……どの顔も輝いています。特に昨年の全国大会でメンバーに入れなかった生徒たちは楽器を持つての写真撮影は初めてですから、大喜びです。

さて、しばらくたちますと、自分達の満足感は大いけれど客観的にはどうなのだろう？山口県代表としての責任は果たせたのだろうか？ということが心配になって来ました。しかし、その心配も講評をいただいてなんとか解消することが出来ました。秋山紀夫先生の講評には「本日のベストバンドのひとつ」とあり、やれやれと胸をなでおろした次第です。

以上のように全体的には満足感の大きい遠征でしたが、ただひとつ残念だったのはお客さんが少なかったことです。その原因は出場団体のレベル(知名度)にあると思われます。もちろんいずれの団体も、高校生の演奏として素晴らしいのですが、吹奏楽コンクールの全国大会に比べるとやはりものたりないところがあります。昨年は淀川工業や札幌白石などの全国でもトップレベルの学校が出場されたそうですが、今年はそのような目玉となる団体がありませんでした。しかし、秋山先生が講評で言われたように「吹奏楽コンクール全国大会に出場できない学校にも、こんなに素晴らしい演奏をする団体がたくさん」あり、そのような団体が全国規模で集まってコンクールとしてではなく、交歓しあえるということも素晴らしいことです。全日本吹奏楽コンクールに出場できるのはわずか27校であり、その大半は常連の名門校です。それに続く第2、第3グループの学校に全総文祭というチャンスがあることは有意義なことだと思います。もしできることなら、毎年その中に全国大会金賞レベルの学校を1・2校入れるようになれば、この全国高総文祭がいつその盛り上がりを見せるものと思います。

マーチングバンド・バトントワーリング部門

理事長 花 村 慈 照

(宇部女子高等学校)

出場校と演技曲名(出場順)

- ①三田尻女子高「ドント メイク ミークライ」
- ②早鞆高「ジャングル ファンタジー」
- ③宇部女子高「エンターテインメント」
- ④岩国工業高「スターウォーズ」その他2曲

マーチングバンド・バトントワーリング部門がこの山口県高等学校総合文化祭に参加するようになって初めて岩国工業高のマーチングバンドが参加されました。このことにより今大会が活気あるものになったと思います。今後さらに多くの学校が参加されることを希望します。今年度は岩国工業高校の参加により、総合開会式の中で、マーチングバンドとバトントワーリングをドッキングさせました。客席の通路を使っ

て、マーチングバンドの「ブラジル」の演奏のもと、三田尻女子高、早鞆高、宇部女子高の3校のバトントワラー60人による、ポンポンの演技は会場の人々に感銘を与えることができました。来年度以後も続けられるように、各校とも努力しなければならないと思っています。マーチング部門の4校は学校行事をはじめ、地元の各種の行事に参加し、地元の人々から感謝され、それぞれ活躍されていますが、一堂に集まって演技をすることはほとんどありません。各校の演技をお互いに確認して勉強できるこの大会は大変意義のある祭典です。今後ともこの大会を大切にしていきたいものだと思います。



第12回山口県高等学校総合文化祭 岩国工業高等学校

各校の反省として

岩国工業高校 顧問 川村富久男

私は今年初めて県総文に参加しました。もっとも吹奏楽の顧問も、学校の教師という職業自体今年初めてなので、なにかも新鮮に見えます。今年は岩国地区が引受地区であり岩国高校が主管校でした。岩国高校の先生方、特に安本校長先生を初め福田先生、藤本先生が早くからいろいろと準備等で奔走されました。私は打楽器搬入の係として会場の外にいましたのでほとんどステージは見られませんでした。オープニングだけは見せてもらいました。150人の吹奏楽、管弦楽、コーラス、あの大地讃頌は本当にすばらしく思いました。打楽器搬入口では出演順番を待つ各学校のパーカッションの生徒と話ができたのしい思い出となりました。

岩国工業高校吹奏楽部部長 松田 明子

今年の山口県高校総合文化祭、音楽部門は、岩国で開催されたので、地元ということで話が持ちこまれ、この大会に参加することになりました。マーチング・ドリルで出演するのは私達の学校だけでしたが、他校の吹奏楽部やバトン部の皆さんと良い交流ができました。この大会では、色々な学校の演技・演奏を観ることができたので、大変勉強になりました。その分、私達も他校の皆さんに負けないよう一生懸命演技しました。演技前、パターンを間違えたりしないだろうという不安な気持ちで大変緊張しましたが、いざ、本番となると皆、日頃の練習の成果を十分に発揮し、思いきり演技することができたので、とてもうれしかったです。この想い出を大切に、これからも皆で頑張っていこうと思います。



三田尻女子高校 顧問 友安 愛子

たくさんの夢を見、たくさんの汗を流し、晴れの舞台にのぞんだ生徒達の感動は、大きな心の宝物となったことでしょう。これからも実技の向上をめざすとともに、バトンを通して、学校の教育方針である人物養成に役立ってくれる

ことを期待しつつ、日々生徒とともに努力を続けております。

三田尻女子高校バトン部部長 新井里江子

最上級生としての初めての最大行事である山口県高等学校総合文化祭が、岩国市民会館で行

なわれた。今まで先輩方の指示で動いてきた私達が、今度は下級生の機関車役となり選曲から振り付けまで考えていかねばならぬ立場となったので、本番で恥をかかぬよう、おのおのが出来る限りの力を出しきろうと誓い合い、打ち合わせや練習を繰り返してきた。当日、緊張しきった中で、前夜遅くまで工夫をして縫った衣裳を着、舞台へと上がったその瞬間も、バトンを落とさないだろうか、順序を間違えないだろうか。と不安は尽きなかった。多少の失敗もあつ

たが、どうにか無事に終わり、拍手が耳に聞こえた時どんなにほっとしたことか。2、3年生の新しいメンバーで取り組んだ初めての舞台、一生忘れられぬ思い出となるでしょう。また、今日の行事で他校のバトン部の皆さんとの交流も生まれ、演技なども大いに参考になり、もっと頑張らねばと新たな意欲が生まれてきたことも大きな収穫といえるでしょう。感動の日でした。

「バトン部」の存在

早鞆高校 顧問 磯部 瑤子

今年の総合開会式を華やかに彩ったポンポンの演技は、久しぶりの3校合同によるものでした。単独校では表現できない効果を、それぞれの学校が、また一人ひとりが、その責任を果たすことによって初めて一つのものとして目標を達成出来たことは、「全国総文」「全国総体」からしばらく遠のいていた合同演技を体験し、生徒にとっては本当に良かったと思います。岩国工

業高校のマーチング・バンドからいただいた曲は、心に残る素晴らしいものでした。ポンポンによって会場の雰囲気を演出することについては、次の機会には色々と考えたい点がありますが、今年は初めてとしてはまあまあの出来だったと思います。県内にバトンをやっている学校が3校しかないのは淋しいことですが、その反面、誇りと使命を持ってがんばらなければいけない立場におかれています。3校が一つとなって、どうすればレベルアップ出来るかを考え、実行することが、私共の課題であると思います。



第12回山口県高等学校総合文化祭 早鞆高等学校

「県高校総文祭に参加して」

早鞆高校ダンス部部長 山崎 多美

6月に開催された山口県高等学校総合文化祭は、私達のクラブ活動にとっては、他校と交流の出来る唯一の発表の機会だけに、今年こそは良い作品をと、早くから取り組みました。しかし、テーマ曲が決定するまでに日数がかかってしまい、実際に動きを創り始めたのは、随分遅くなってからで、間に合うだろうかと、あせってしまいました。今年は、「ジャングル、ファンタジー」という作品を発表しました。導入部の

ジャングルの夜明けを表現するのに、ライトボタンを使用し、動物達の活発な動きなどは、入部して間もない1年生がダンスで表現しました。作品は、ムードとしてはまとまりましたが、技術的には未熟なまま発表したという反省をしています。ステージがライトボタンの美しい光の流れで演出された時、客席からの反響をととても嬉しく思いました。これからも3校のボタン部の皆さんとの交流で、励まし合い、刺激し合いながら、来年は一段と良い作品を創っていきたいと思います。



第12回山口県高等学校総合文化祭 宇部女子高等学校

「県高校総文祭に参加して」

宇部女子高校 バトン部
部長 山崎 乃子

毎年6月中旬に開催される山口県高校総文祭は今年は岩国市民館大ホールで開催されました。今年度は例年に比べて岩国工業高校のマーチングの演奏で3校合同のボタンの演技をすることになり、先生方が集まられて演技を振り付けられ、それをもとに各校別々で練習をしましたので、3校が集まった時大変不安でありました。多少テンポがあわない個所がありましたが、短

時間のうちに、3校の息がぴったり合うことができ各校とも練習の結果だと思います。各校の演技で私達は「エンターテインメント」という、いままで取り組んだことのない曲で演技をすることにし、振付けにかなりの時間をかけました。特に曲と振付けがフィットしなければ、まったく異なった作品になります。本番において、メンバーが一丸となり、最後のポーズをした時、「出来た!!」という気持が全身にみなぎり、何か熱いものを感じました。これも練習を重ねた結果だと思いました。この気持を後輩に受け継いでもらいたいと思います。

日本音楽部門

理事長 中野靖子

(中村女子高等学校)

平成2年度の山口県高等学校総合文化祭日本音楽部門は、吟詠剣詩部門と一緒に、歴史と文化の香り高い、柳井高等学校を主管校として、6月24日「サンビームやない」を会場として開催されました。立派な会場にどよめく生徒もあり、ひとときプロの演奏者にでもなった気持ちを味わっていました。

今年は14校179名と昨年に比べ59名増で、日本音楽部門の活動が一段と高まり、広がっていることはこの上ない喜びでもあります。又一昨年から県立盲学校、県立聾学校の皆さんの出演でもりあがってきていることは嬉しいことでもあります。

以下演奏発表の一部を紹介します。



柳井高校による合奏 フォスターの旋律による 三重奏曲



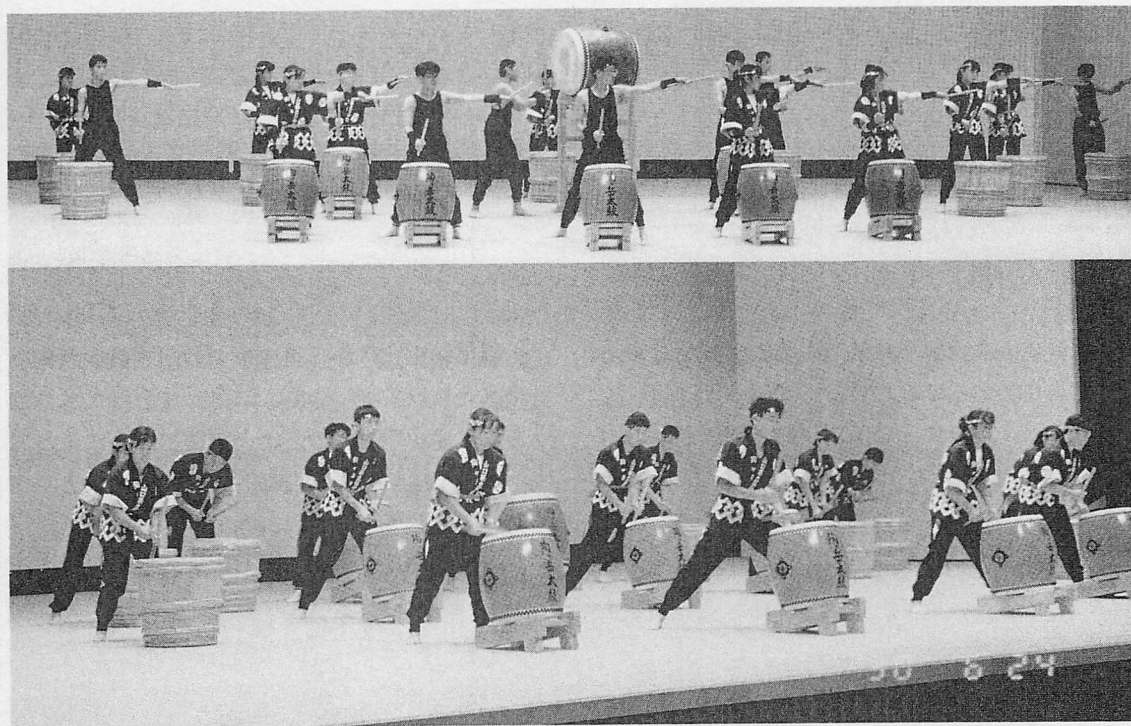
中村女子高校による合奏 雲



下関女子短期大学付属高等学校による合奏 初夏の香り



岩国高等学校による合奏 茶つみ・数え唄



山口県立豊学校による陶ヶ岳太鼓

陶ヶ岳太鼓の説明をしますと、山口に伝わる「大内姫太鼓」の流れをくむもので、学校の裏手にそびえる陶ヶ岳という山の名にちなんで「陶ヶ岳太鼓」と名付けられたそうです。全国高等学校総合文化祭の郷土芸能部門に一昨年参加しました。

以上が山口県高等学校総合文化祭の一コマです。

次に8月には全国高等学校総合文化祭が、「はばたけ 創造の翼 いま 山梨の空に」をスローガンとして、山梨県で開催されました。我が県の代表として、県立柳井高等学校が「佐保姫」を立派に演奏してくれました。日本音楽部門の新しい試みとして、今年度から全国大会で優秀校に選ばれた2校については、8月下旬、国立劇場で演奏することになりました。各県とも尚一層の努力を必要とすることになりますが、日本音楽の活性化にもつながることでもあります。是非継続を願うものであります。

高文連の新しい事業として、山口県と姉妹県

である大韓民国慶尚南道の高校生との文化交流の企画が予定されており、日本音楽部門と合唱部門が3月27日慶尚南道のKBS昌原放送局で交歓演奏会を行うことになっております。その成功を期して、目下練習に励んでいるところで

参加校と人数をお知らせします。

防府高等学校	5名
県鴻城高等学校	5名
中村女子高等学校	3名
山口高等学校	2名

平成3年度の山口県高等学校総合文化祭、日本音楽部門は、中村女子高等学校を主管校として、6月23日、山口市で開催する予定です。1校でも多くの参加を期待しております。

終わりに、本年度の大会を開催するにあたり、御尽力を賜りました柳井高等学校に対し、紙上をお借りして厚くお礼申し上げます。

吟詠・剣詩舞部門

理事長 辛 嶋 茂 樹

(下関工業高等学校)

本年度の吟詠剣詩舞部門の活動状況を日を追ってふりかえってみたい。

まず、6月17日、岩国市民館で開催された山口県高等学校総合文化祭の開幕式典において、書道吟「錦帯橋」を発表した。書は高水高の女生徒、吟は下関工高の男生徒がつとめたが、どちらも堂々として立派な発表であった。参考までに詩文を次に掲げる。

錦 帯 橋

吉 富 梅 窓

連々起伏して巨龍跳る 天下の名勝錦帯橋
橋下の長江は玉韻を伝え 岩城の楼閣は波に
映じて漂う

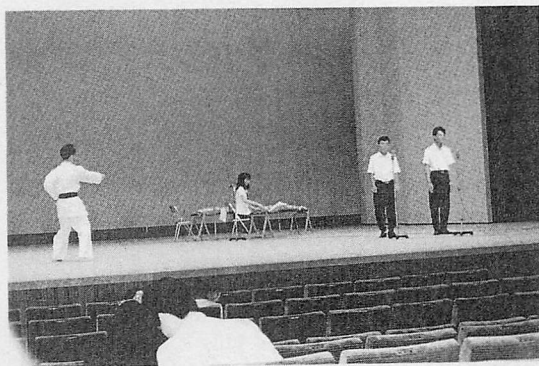
つづいて6月24日、本部門と日本音楽部門の合同発表大会が、柳井高を主管校として柳井市のサンビーム柳井で開催された。本年も昨年と同様に、聖光高、下関女子短期大学付属高、下関工高がチームを組んで構成吟「山口県の歴史を詠う」を発表した。



聖光高の詩舞

縄文弥生時代から幕末までの山口県の歴史を吟詠とスライドで綴り、25分にまとめたものである。途中聖光高の詩舞と下関工高の空手が入っている。箏伴奏は聖光高が受け持ち、ナレーターは下関女子短大付属高と聖光高の吟士が交替でつとめた。各校ともよく練習していて、満足のいく発表であった。そしてこれをそのまま全国大会に持って行って発表した。

県大会の運営には、柳井高の多数の教職員と生徒諸君が当たられたが、積極的に活動され、お陰で円滑な進行ができて、予定時間よりも早く終了することができた。ここに厚くお礼申し上げる。



下関工高の空手吟

本年度の全国高等学校総合文化祭は、8月2日山梨県甲府市の県民文化ホールで開催された。本県の出演はプログラムの第1番であったので緊張したが、開会式に登壇された多数のご来賓もご観覧下さり、大変名誉なことであった。開幕トップというプレッシャーをはねのけて、県大会以上の立派な発表ができて、各方面からお褒めの言葉をいただいた。

この大会には、全国から86校、533名の生徒の参加があって、昨年度以上の規模に盛り上った。本年度大会の特徴は、単独校の参加が減って、県単位チームでの構成吟の形の参加が増えているようである。したがって剣舞、詩舞、書道吟、居合吟、空手吟等多彩な舞台が繰り広げられた。

8月11日、山口県教育会主催の「吉田松陰生誕160年・久坂玄瑞生誕150年記念山口県学校吟詠剣詩舞道大会」に参加した。この大会は昨年度から始まり、コンクール部門と自由参加部門

とがある。自由参加部門で構成吟「山口県の歴史を詠う」を発表した。コンクール部門は、小学生の部(低学年・高学年)、中学生の部、高校生の部、大学生の部と細かく分かれている。高校生の部には男女合せて15名の参加があった。

以上で本年度活動の概要を終わるが、県大会の参加校が年々減少しているのは淋しい限りである。正課で詩吟クラブを持っている学校はかなりあるので、次年度はこれらの学校にも積極的に参加していただくよう呼びかけたい。



下関女子短期大学付属高の合吟

演劇部門

熱気あふれる舞台

西村 司

(厚狭高等学校)

地区大会

各地区大会のどの舞台をとっても、不安定のものは1校もなかった。高校演劇としてのまとまりを見せていた。レベルの高い舞台だった。

来年のために、ひとつだけ注文をつけておく。怒鳴る演劇はそろそろやめたいものだ、ということである。元気があるのはいい。たしかに魅力のひとつだが、舞台から、エネルギーを放射するだけでなく、静かにスット引き寄せる魅力も備えて欲しい。

メリハリ（減張）というのは、演じる側の問題ばかりでなく、観客が身を乗りだして、つまり『張る』時をたえた舞台を創造することを忘れたくないものだと思う。

いい汗を流した、熱い夏だった。

駄句ひとつ

演劇が終われば終わる夏休み

県大会

県大会は、10月14日、山口県教育会館で山口中央高校主管で開催した。

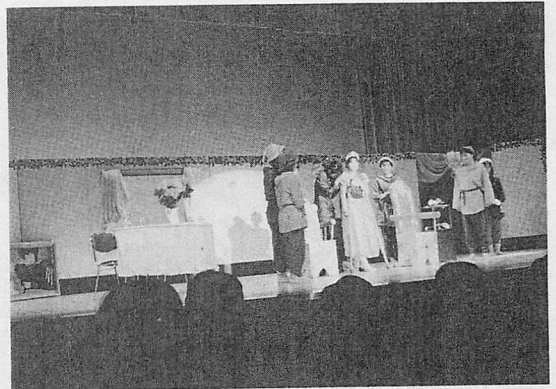
講師は、今年も永曾先生にお願いした。

上演校の舞台成果については、永曾先生の情熱あふれる講評でいい勉強になったと思うが、上演順に寸評を記しておく。

中村女子高校

松本和子作 ある白雪姫の話

最初の舞台というものは、どうかすると固くなり、のびのびした表現が見られないが、おもいきった自分たちの世界を創造していた。熱演



であつた。なかなか考えて、おもしろく演じているのだが、ふくらませ方に工夫が欲しかった。

豊浦高校

片山史雄作 ビフロストの橋

生徒の創作である。かなり荒削りの作品だが



劇としての展開はきちんとしていた。もう少し丁寧に書いていくと、奥ゆきのある舞台になったと思う。

宇部高校

如月小春作 トロイメライー子供の情景
作者の世界をよく理解していた。よくできた作品であった。装置もすっきりしていた。青春



の屈折のある叙情を演技者が生き生きとつつみ
場面もきちんとおさえ、みごとな舞台であった。

山口中央高校

北野 茨作 戦の夜の夢

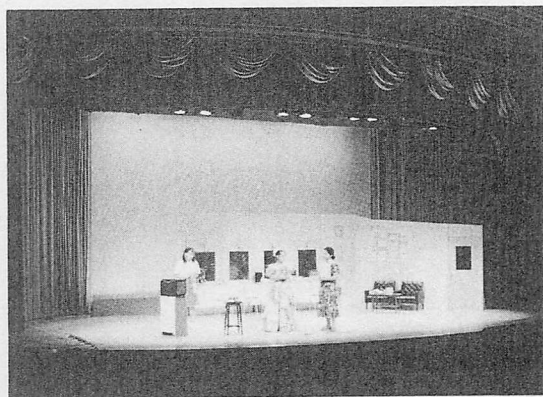
さっぱりした、簡潔な舞台であった。人物の
形象、間の変化の工夫が欲しかった。演技者に
ところどころ不必要な誇張もあったが、へんに
ストイックなものよりはよかった。



下関南高校

椎賀 聖作 再会屋

個性化した人物、誇張した演技、演技者は一
応の線までこなしていた。豊かな世界を作りあ
げていた。南校節は生きていた。妙に残像を残

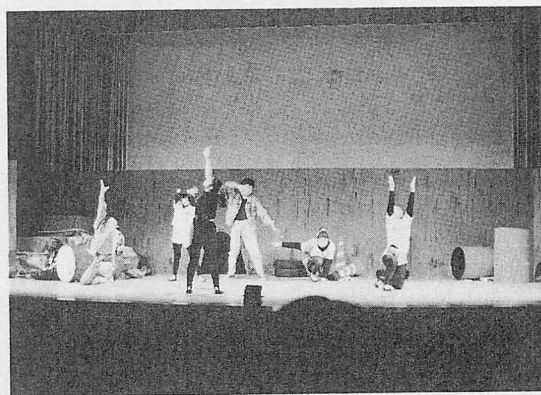


す作品であった。

岩陽高校

倉田恵子作 猫たちと犬どもの空間

顧問の作である。生徒の個性をよく知ってい
るのが、舞台によく反映していた。舞台を走る



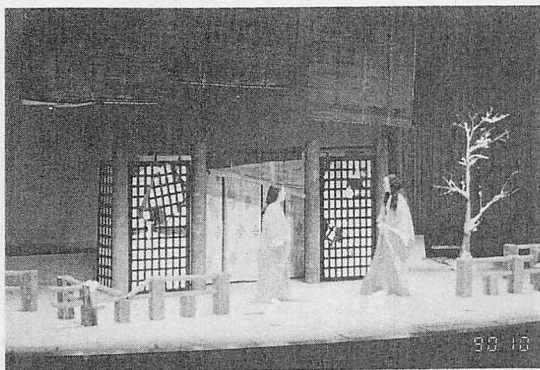
演技者の表情は圧巻であった。豊かな色彩を持
った仕上がりであった。青春のエネルギーを完
全燃焼させる姿は美しく感動的だった。

何を訴えたいのか、というテーマへの迫り方
が弱い。戯曲のセリフは、自転車と同じ、動い
ていなければ倒れるという危ういものでなけれ
ばならない。願望をこめてそう思う。

県鴻城高校

榊原政常作 しんしゃく源氏物語

装置は超高校級、驚嘆。赤と黒の色彩を基調
に松、紅葉、藤と庭の木も変化して季節感を表
すなど大変な力作であった。



演出力が勝ちすぎていた。その分、演技者にゆとりがなかった。一所懸命の演技に、ゆとりのある伸び伸びとした演技の自在性が加われば、もっと素晴らしい舞台になったであろうと惜しまれる。

審査の結果、宇部高校と山口中央高校が最優秀に選ばれ、第28回中国地区高校演劇大会に出場した。

中国大会

第28回中国地区高等学校演劇大会は、11月22日、23日島根県民会館で開催された。

2日間を通して言えることは、どの作品も羽目はずすことなく、まとまりをみせていた。

第1日目

印象に残った舞台は、広島県代表の鈴峰女子高校の『柳』である。

演出の努力によってきちんと訓練された重厚な舞台であった。柱と壁の厚み、時代を感じさせる色、衣裳、そのエネルギーと表現技術はたいへんなものだった。

美しく哀しい世界を豊かに作りあげていた。

山口中央高校も、さっぱりしたいい舞台を生き生きと演じた。好感のもてる舞台だった。

初めての大舞台で、大きな舞台を大きく使って、演技者のきびきびした動きがかわいかった。地方色の欠如（中国大会で東北弁）自分たちの言葉を大事にしたいと思った。

第2日目

広島県の舟入高校『がんぎものがたり』と宇

部高校の『トロメライー子供の情景』は観客の心を震わせた。

この舞台は、一方がオリジナル作品、もう一方が既製の台本というちがいはあるが、この舞台に共通しているのは、台本と演出・演技をふまえての緻密さであり、手固さである。

一貫して『ヒロシマ』のテーマを追求する舟入高校の演劇的努力と、『知的な快感』を維持していた宇部高校の努力には敬意をはらいたい。

どちらが文部大臣賞を受賞してもおかしくない。高校演劇の演劇としての水準を眼に見える形、見えない形でささえ、他高校をはげましているように思われた。

審査の結果は、下記の通りである。

文 部 大 臣 奨 励 賞	広島県	舟入高等学校
全国高等学校演劇協議会長賞	山口県	宇部高等学校
島 根 県 知 事 賞	広島県	鈴峰女子高等学校
島根県教育委員会教育長賞	鳥取県	米子西高等学校
松 江 市 長 賞	岡山県	玉野光南高等学校
松江市教育委員会教育長賞	島根県	大東高等学校
中国高等学校演劇協議会長賞	島根県	益田高等学校
中国高等学校演劇協議会長賞	山口県	山口中央高等学校
中国高等学校演劇協議会長賞	岡山県	関西高等学校
中国高等学校演劇協議会長賞	島根県	出雲商業高等学校
中国高等学校演劇協議会長賞	島根県	倉吉西高等学校

全国大会

第14回全国高校総合文化祭・第36回全国高校演劇大会は、山梨県甲府県民文化会館で8月6日から3日間開催された。

全国2,500校の参加校のなかから選ばれた11校の舞台はすばらしいものだった。

観客席を埋めた高校生たちのこれからの人生を変えてしまうような、若々しい感動があった。今年から上位4校が国立劇場に出場することになった。熱気のある大会であった。

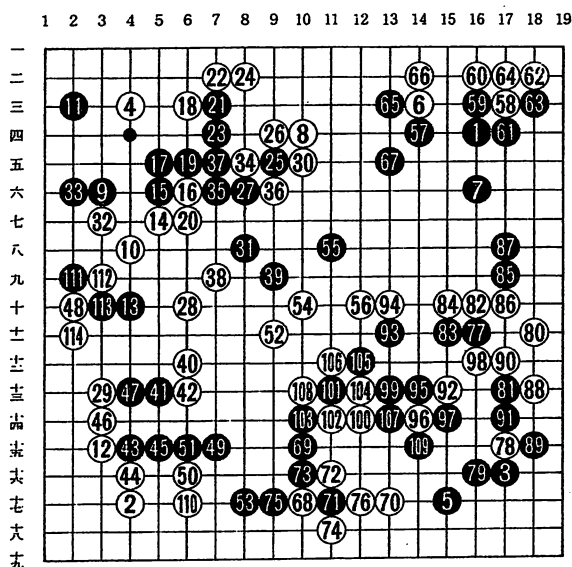
上位4校 青森県立八戸北高校・滋賀県立高島高校・群馬共愛学園高校・鹿児島県津曲学園鹿児島高校

囲碁部門

理事長 川崎長門
(徳山高等学校)

第3回全国高文連囲碁大会個人戦女子A組で三木京子さん(徳山高校1年)が優勝。

平成3年1月21日(日)に山梨県甲府市の山梨文化会館で行なわれた第3回全国高等学校文化連盟囲碁大会の個人戦女子A組で徳山高校1年の三木京子さん(棋力5段格)が1位になりました。スイス方式の4回戦制で全局中押勝でした。正直に言って優勝できるとは思っていませんでしたので驚きもし、嬉しくもありました。高校女子の囲碁のレベルは年々向上しており、今年は5、6段が5、6名いるので、激戦が予想されましたが、予想通り、どちらが勝ってもおかしくない手に汗握る熱戦が展開され、その中をくぐり抜けて優勝できたのはまさに運がよかったからだと思います。特に3回戦で対戦した熊本県宇土高校の田中弓子さんは、昨年夏の全国高校囲碁選手権大会で個人戦女子で3位に入賞し、昨秋の九州大会では優勝して、今大会の優勝候補の筆頭と目されていましたので、一番きつかったのではないかと思います。4回戦の相手の千葉県市川西高の永井紀子さんは、昨夏に対戦して勝っていますので、割合気楽に戦えたのではないのでしょうか。それでも緊張と不安からか顔色が青ざめて、今にも倒れそうな様子だったので内心は心配でしたが、試合中は落ち着いて、着手も的確だったので、その強靱な精神力と集中力に驚嘆しました。山口県の他の3人の選手、男子個人戦A組の林裕治君(岩国)、B組(ハンディー戦)の山田豊君(下関西)、女子個人戦B組の三木夕子さん(徳山工業)も、全員2勝2敗でよく頑張って全力を出し尽しま



第3回全国高等学校文化連盟囲碁大会

1991年1月27日(日)
於 山梨文化会館7階山梨化学園ホール
個人戦女子A組 オール互戦 2回戦
先番 木下かおり(神奈川生田東)
三木 京子(山口徳山) 中押勝

した。今後はお互いに精進し、一步でも高いレベルでの競争を期待したいものです。

最近好みが多様化のせい、高校生の囲碁人口は残念ながら年々減少の傾向にあります。囲碁は年寄りくさく、取りつきにくい印象もあるのですが、ルールは簡単ですし、一度覚えたらこれほど面白いゲームはないと思います。伝統的な日本文化の継承と発展は高文連のみならず、若い人々の使命でもあります。何でもやってみよう、何かにトライしてみようというのは若者の特権です。日本文化の摂取を通して、人間の幅が広がり新しい視野が開けてくることによって、人生の楽しみが増えるでしょう。幸い囲碁は世界的な広がりを持ち始め、囲碁を通しての友好の輪も拡がりつつあります。高文連の各部門で、お互いに切磋琢磨して精一杯頑張らしましょう。

美術・工芸部門

理事長 岸 勤
(宇部商業高等学校)

1. 県高校総文祭展示関係部門

平成2年10月26日(金)～28日(日)

柳井市体育館・柳井市文化福祉会館

主管校 山口県立柳井高等学校

引受地区で最初に直面するのが、適当な会場確保の問題である。関係者からはより参加しやすい条件として時期の問題、それも各校の行事や定期試験の日取りも考慮してほしい等の意見が寄せられるが、公共的な会場使用には様々な制約や他の企画との調整もからんでそう思い通りには行かないものである。

本年度の展示関係部門の主管校となった柳井高校校長の佐々川先生が、4月当初の企画運営委員会の席で、「柳井地区でこの行事が満足に行える施設は柳井市体育館しか考えられないが、スポーツに熱狂的な市民をかかえる柳井市が、スポーツの秋のさ中に準備を含めて4日間も開け渡してくれるかどうか分からない。」と述べておられたことを記憶している。

にもかかわらず、時期としては最も理想的な10月26日～28日の3日間、広々としたフロアを自在に使っての展示をはじめ、文化福祉会館大会議室での有意義な講演会を催すことができたことは感謝の一言に尽きる。準備と後始末まで使用した期間はほぼ一週間である。柳井高校をはじめとする地域高校の熱意と柳井市の御厚意に厚く御礼申し上げたい。

さて、会場の雰囲気で特徴的であったのは屏風のようにジグザグに配置した展示パネルで、広い床面積を生かした面白い方法であったと思う。



オープニングセレモニーに続くテープカット
(柳井市体育館)

今回は運営上の新しい試みが二つあった。一つは本年度の全国高総文祭(山梨県)に県代表として出品された作品を、再陳列して紹介したことである。今一つは、来年度の全国高総文祭(香川県)に出品する候補作品を、展示作品の中から最初に選んで「候補作品」のラベルをつけて明らかにしたことである。

並列的に展示するだけでなく、見る人も、作品の見どころや取り扱いに関心を持ってもらうと共に、制作者である生徒にも刺激を与えて行きたいというのがその趣旨である。

出品作品については昨年と同様、よく頑張っているものがある半面、これから指導が必要と思われるものも並んでいる。さらによく見て行くと、これらの中で見ごたえのある作品のほとんどは3年生であることに気付く。

そこで困るのが、2年生以下からしか選ばれない来年度全総文出品候補作品の選定である。

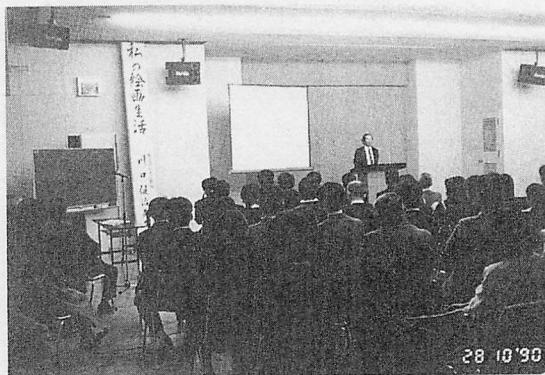
認められる出品点数がとにかく選考されたものの、多くは質的に山口県を代表するレベルと

は言い切れない結果となっている。今一方の展覧会である山口県造形教育研究会主催の山口県学校美術展に展示される入選作品と合わせて、我々が認知している県全体の高校生の作品の質を考える時、これは運営上問題があることは明らかである。

高文連美術工芸部門の顧問会議と、高教研美術工芸部会双方の協議会で真剣に対策を考えていただきたいと思いますので御協力をいただきたい。

会場の作品群の中でユニークであったのは柳井高校出品の立体構成である。建築材の合成樹脂パイプを切断したものやビニールホースなどを組み合わせて作った協同制作で、見ていると制作中の生徒達の生き生きとした表情が浮かんでくる楽しいものであった。

最終日28日の講評会は、柳井工業高校の松村直教諭、柳井高校の竹田安満教諭それに不肖私が担当した。午後1時より3人で手分けをして、



岩国短期大学教授川口健治氏の講演

それぞれの壁面にかかっている作品について講評を行ったが、視聴者の中に出品している生徒の出席が少なく、制作を行う中で出てくる切実な問題を掘り下げるような場面が少なくなってしまった。

講演会はその後の午後2時から、文化福祉会館大会議室にいっぱい参加者を得て行われた。

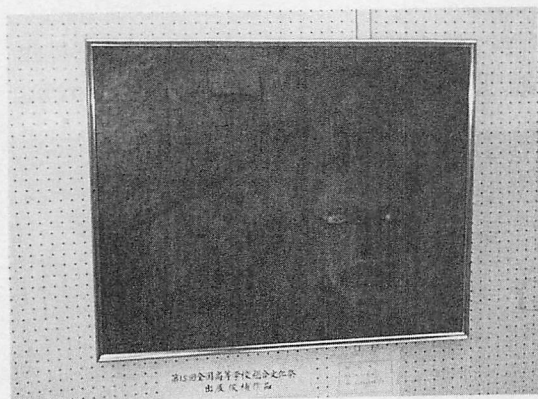


屏風状にパネルを配置した展示会場

岩国短期大学教授川口健治氏の「私の絵画生活」と題された講演は、創作活動を行う高校生の励みになればとの暖かい心のかよう内容で、氏の幼少時から現在の制作活動に至るまでを、映像や実物を示されながら紹介された。実直な人柄のにじみ出た講話は、聴く者総てに親しみを感じさせ、フィナーレにふさわしいものであった。

なお、平成3年度全国高総文祭（香川県）への出品候補となった生徒は以下のとおりである。

柳井高等学校	2年	坂木雅子	絵画
大嶺高等学校	1年	吉谷正行	絵画
萩工業高等学校	2年	竹下達麻	絵画
西京高等学校	2年	河村さよ美	彫刻
宇部女子高等学校	1年	西村幸恵	デザイン



全総文出展候補作品のラベルのついた作品

2. 第14回全国高等学校総合文化祭

8月1日、真夏の甲府盆地はうだるように暑く、湿度の高い大気は近くにそびえるはずの富士山をかいま見せてもくれなかった。

しかし、甲府駅から伸びる大通りは高校生のパレードに沸き、県民文化ホールでの総合開会式は、各部門の結集したエネルギーに満ちていた。

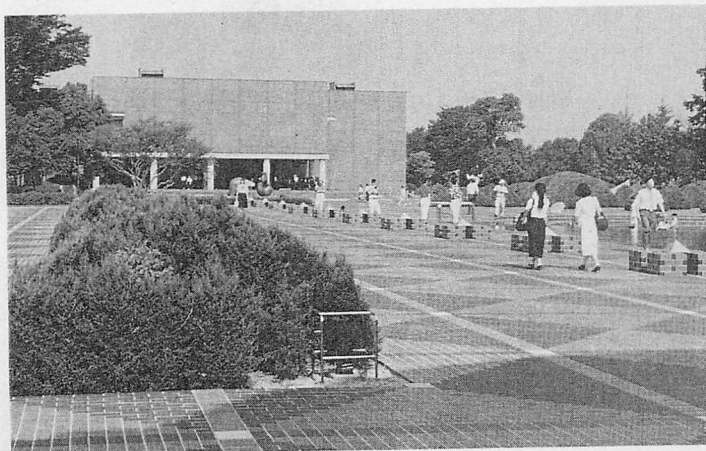
美術・工芸部門は山梨県立美術館で展示が行われ、ムーアの彫刻と噴水のある広場を置いて向い合う文学館を使って交流会・講評会が行われた。

出品されている絵画は50号の油彩が主流だが圧倒的に多かった静物画から、少しずつバラエティに富んだ題材が選ばれるようになっているように見受けた。

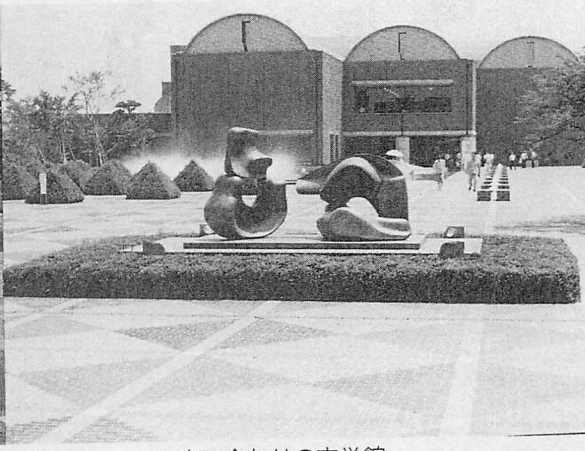
彫刻にも表現の幅が見られるようになって楽しいものがあるが、ジャンル別の参加作品数が示されたので掲載することにしよう。

2日目に、美術館と道路を隔てた県土木事務所の一室で、全国から集まった代表者の顧問会議および専門部会が行われた。そして今回の総文祭の経過説明や質疑に続いて、全国高等学校文化連盟美術・工芸部会会則案が承認された。

それらの中で、発展の過程で未分化のところもあった美術・工芸教育研究会組織と高文連組織は別にする方向で進んで行くことが確認されたことを付記しておきたい。



山梨県立美術館



向い合わせの文学館

第14回全国高等学校総合文化祭美術・工芸部門

参加作品数一覧

ジャンル	県外作品数	県内作品数
油 彩	145	79
水 彩	9	2
日 本 画	3	
デ ザ イン	50	15
工 芸	45	26
彫 刻	19	3
立 体	4	7
版 画	3	3
ア ク リ ル	1	
テ ン ペ ラ	1	
	280	135



色々な表現が見られる彫刻の出品作品(上、下)

書道部門

理事長 荒瀬 宏
(防府高等学校)

平成2年6月16日(土)、岩国市民館大ホールにおいて、本年度の県高校総文祭開幕式典が行われた。その際、11部門の紹介とともに、各部門の参加が考えられ、書道部門は吟詠剣詩舞部門と共に“書道吟”を初公開した。慶祝演奏直前に、下関工高男子2名と高水高女子2名が辛嶋・岩見屋両先生の指導のもとに立派な書道吟を披露した。ご苦勞の多かった指導とその成果に感激した。その模様はビデオテープに撮り、秋の高教研書道部会の席で発表された。今後、各地で行われる諸行事等で、積極的な書道吟への取り組みが期待される。

その他、市民館ロビーにおいて、前年度の全総文出品作品が三部門(美工・書・写真)合同で展示された。この試みは、他部門参加生徒の眼に触れ、各部門のレベルの高さについて考える好機ともなった。

展示関係部門の運営委員会は、6月5日(火)、柳井高校で1回のみ行われた。特に主管校の柳井高、国安先生を中心に、地域の先生方には多大のご苦勞をおかけした。会議での問題点は、書道部門のみ審査せず、次年度の全総文出品作選定はどうするのか、県のレベルアップを図るべしとの意見が出た。そこで、高教研書道部会理事会で相談した結果、基本姿勢を堅持し、高文連発足当時の原点を守り通すことが確認された。

秋の展示関係部門発表会は例年になく理想的な日程——10月26日、27日、28日の3日間、柳井市体育館で展示された。その結果、県下各地からの多勢の高校生の観覧が期待されたが……

…?少なくとも出品者生徒は参加し、講評会でお互いが交流できるよう、指導者の意識を改革し、生徒会活動を見直したいものである。将来は生徒達自らの手でつくる交流会が、年々盛んになることが期待される。

展覧会最終日には各地のユニークな芸術家による講話がある。今年は岩国短大、川口教授のスライドによるお話で、会場一杯の高校生とともに、芸術家としての成長過程や日常活動の地道な積み重ねの大切さに感動した。

講評会は1時間という短い時間内で、参加生徒の作品のみを鑑賞、講評して巡回した。講評を担当した教師は、岩見屋(高水)、佐貫(宇部商)、岡本(熊毛南)、荒瀬(防府)の4名のみであった。書道部門は少人数の集団なので、来年度以降はより一層のご協力をお願いする。

(本年度の部会協議・反省)

12月4日(火)防府高で書道部会を開き、諸問題を協議した。出席者は12名。

●高文連国際交流事業 — 韓国慶尚南道の高校生との交流が今年より開始されたが、書道部会としては今後どのように取り組むべきかを協議した。書道部門としては、中国山東省との交流を希望する意見が多かった。韓国との交流の場合、第一に合同展、第二に韓国内の古名蹟見学等が考えられ、派遣教師2名、生徒6名程度の参加が適当との意見が多かった。

●展覧会の時期は当番支部周辺の高校の都合を最優先して考えることが大切で、地域の協力態勢を整えることも大切だろう。次年度は宇部

地区が担当、会場確保がむずかしいまま越年した。数年先までの長期計画の立案が是非とも望まれる。

- 講習会への参加者をもっと多くすべきだろう。日曜日午前中からでも生徒の手による交流会を企画・運営し、多くの他校の生徒・教師の意見交換が活発に行われるのが理想だろう。

- 作品規定の中に、本年度より新しく釈文の手書きが課されたが、その趣旨が徹底しなかった。釈文の内容について、白文のままでよいという意見と書き下し文にして語句の意味まで吟味すべしという考え方があった。今後、教師の間で徹底した討論が必要だろう。

- 落款の書き方、自刻の雅印使用については多くの学校で意欲的な取り組みがなされ、好評だった。ものを創る意識を高め、日常の部活動の活性化も些細なことからはじめねばならないだろう。

- 題名のつけ方は、ほぼ統一的に整ってきたが、創作作品へのそれは難しく、今後とも研究してゆくことになった。

- 作品形成の多様化が志向された年だったが、相変らずの半切縦長形式で新味に乏しかった。校内の文化祭等の発表の場で、新工夫を試みながら、新しい額購入と併せて研究したいことの一つでしょう。

- 応募点数は例年に比べ、やや減少した。1校4点出品可能なので、より多くの出品を考えてほしいものである。

(全国高校総合文化祭について)

8月1日から3日まで、甲府市で開催された今年の全総文山梨大会には、下関西(生田・澤田)宇部商(佐貫・福田)、中村女子(米谷・藤井)他に古屋(山口中央)、荒瀬(防府)が参加した。

立派な会場(県立文学館)の中での本県の3点は、いづれも真摯な高校生らしい臨書作品で好評であった。細やかな技の練磨(下関西)、大胆な生命力の吐露(中村女子)、金紙へ濃墨での

厚味の挑戦(宇部商)など、生徒自身の努力、精進とともに、指導助言された先生方に頭がさがる思いであった。

次年度の香川大会へは、宇部西高、三田尻女子高、野田高3校が推薦されました。1年間の取り組みは、個人に限らず、書道部全員の精進が期待される。

なお、本年度の出品者の山梨大会へ参加してと題する感想文を以下に掲載する。その感動をご一読願いたい。

- この文化祭に参加して、全国の高校生すべての作品に圧倒されました。以前見たこともない、書のリズムや、力強さ、優しさ、美しさ、素朴さ等々の表現を眼前にして、何とも言い難い感動の連続でした。更に作品から感じられる全国有志の書道に対する意気込みにも深い感銘を受け、それと共に、自分自身の多面における未熟さをも、痛感しました。たった一日でしたが、書道の奥深さを自分なりに勉強でき、大変貴重な経験となりました。

(下関西高 3年 澤田 勉)

- 毎年開かれている全国高総文祭、今年私は参加するため、山梨に行きました。初めて山梨を訪ねるということで私は期待に胸ふくらませていました。初日は、パレード、開会式を見ました。そして、その開会式のすごさにびっくりしました。何から何まで生徒の手で作られているのです。舞台の上のみんながすごく輝やいて見えて、またうらやましく思えました。同年代の人たちが繰り広げているものすべてが熱気で盛り上がり、こっちまでが熱くなるほどです。

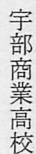
2日目には、私も出品した書道の作品を見に行きました。他の人たちの作品を見て勉強になりました。書道も黒と白の世界から華やかな色へと変わっているようです。字から表現されるものが伝わってくるようでした。

この文化祭を通して高校生だから表現できる

(宇部商業高 2年 福田亜矢子)

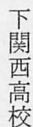
に染まっていました。書道部門の鑑賞をしたのですが、他県の生徒の作品はとてもすばらしいものでした。他県の生徒との討論を期待して交流会にも参加しました。地元生徒の和紙の研究発表では少し残念なところもありましたが、皆一生懸命やっているのが伝わってきました。同じ高校生の一人として参加してみて学ぶ事が沢山あったと思うし、高校生活の中で一番良い経験をさせてもらったと思います。

(中村女子高 3年 藤井喜美枝)



福田 亜矢子 2年

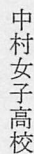
七言二句



澤田

勉
3
年

臨書「懷素草書千字文」



藤井喜美枝

3
年

臨書「李太白憶舊遊詩卷」

写真部門

理事長 環 乃 琢司郎

(岩国高等学校)

県総文について

第12回山口県高等学校総合文化祭は、6月16日に岩国市民会館大ホールで華やかに開幕式典を挙げました。写真部門では恒例により美術・工芸、書道部門と合同で、10月26日から28日まで柳井市体育館で作品展示会を開催しました。

これに先立ち、6月初めに主管校である柳井高校で展示関係部門の運営委員会が開かれ、本年度の開催要項等が検討されました。その主なところを抜粋します。

作品規定

ア 題材 自由(白黒、カラーいずれでも可)

イ 種類 単写真、組写真

ウ 作品の大きさ

(ア)単写真 四つ切り～全紙(木製パネル貼り、又はマットパネル貼り)

(イ)組写真 全紙の3枚分以内(木製パネル貼り、又はマットパネル貼り)

応募点数

- (1) 校内審査の上、優秀作品を出品すること。
- (2) 各校7点以内とする。

6月中旬には開催要項が完成し、加盟各校に配布され出品を募りましたが、最終的な出品校・点数は次のとおりでした。

岩国、岩陽、岩国工、柳井、田布施工、熊毛北、華陵、下松工、徳山、防府、山口、宇部、宇部西、小野田、美祢工、下関第一、響、豊北、萩商、徳佐、三田尻女子、多々良学園の22校から114点。

全総文への出品については昨年度の写真部会でも選定の明確化という御要望がありました。

昨年度に準じ、本年度は外部審査員として専門家の浜本栄氏(二科会写真部会友、大島郡在住)にも加わっていただき、次の5点を来年度の香川大会へ出品することに決め、展示中の該当作品にその旨を表示しました。

※岩陽高2年 安永おりえ「神社にて」

(石段を下る親子連れ後ろ姿ののどかな場面)

※岩国工高2年 佐伯貴也「騎馬戦」

(男性色にあふれた迫力ある運動会スナップ)

※柳井高2年 山畑貴慎「学校祭」

(屋外ステージ周辺の群衆をふかんした写真)

※田布施工高2年 石田清志「背に風を受けて」

(中間調を省略したウインドサーフィン風景)

※三田尻女子高2年 渡辺忍「熱戦」

(バスケット試合の動感あふれたカラー作品)

なお、これ以外にも優秀作品はありましたが、3年生の場合は当年度で卒業するわけですから、全総文への出品選考に関しては対象外として取り扱っています。

最終日に行われた講評会も浜本氏にお願いしました。特にトリミングの問題を力説された氏



第12回県総文祭 10月28日(柳井市体育館)

のお話でしたが、トリミング次第で写真が生きもし死にもすることが素人の我々にもよく理解できたと思います。ただ残念なのは、例年のことですが、講評会に参加する生徒諸君の数が非常に少ないということです。少なくとも出品者は参加し、他人の写真を鑑賞することが勉強になると思います。

県高文連写真部会について

本年度の写真部会は来る2月18日に岩国高校で開催することになり、現段階でその準備中ですが、平成元年度の部会の概要を報告いたします。

1. 日時・場所：平成2年2月19日、岩国高校
2. 出席校：岩陽、坂上、柳井、華陵、下松工、徳山商、南陽工、佐波、宇部西、美祢工、下関中央工、下関工、豊北、萩商、三田尻女子、岩国の16校。

3. 主な協議事項

- (1) 高文連、理事会報告について
- (2) 部会年間事業について
- (3) 部会への意見・要望等について

過去2回の写真部会での話題を要約しますと、県総文に関してはその実施時期の工夫、全総文に関しては出品選定の明確化及び該当作品に表示、部会自主事業に関しては定期的コンテストの実施、技術や作品鑑賞についての講習会の企画等が要望されました。このことについては色々な難問をかかえていると思いますが、今後の研究課題として残ります。

役員（写真部門理事長、任期2年）の改選については、岩国・柳井・徳山・山防・宇部・下

関・長北の順で県下7支部による持ち回りとし、各支部内での話し合いで選出することが昭和63年度の部会ですでに決定しています。

全総文について

「はばたけ 創造の翼 いま 山梨の空に」を大会スローガンとして掲げた第14回全国高等学校総合文化祭の写真部門は、8月1日から5日まで山梨県県民会館で作品展示会が開催されました。

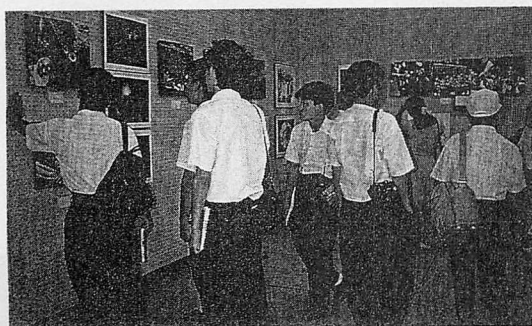
全国から出品された312点が整然と並べられておりましたが、本県からは次の5点を選定し出品しました。

- ※岩陽高3年 行武弘恵「妹」
- ※岩陽高3年 村田朋恵「Time」
- ※柳井高3年 森光泰志「現代高校生気質」
- ※柳井高2年 上村佳子「しかられて」
- ※萩商高3年 岡野美保「光華」

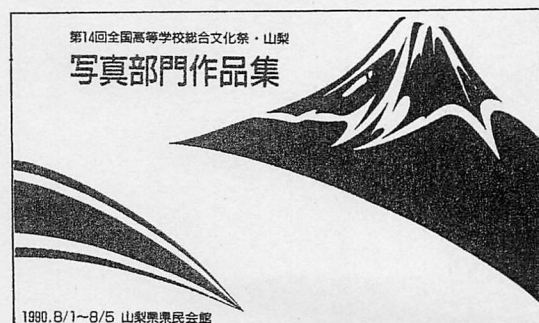
全総文では例年、約1割の作品に奨励賞と称して銀紙が表示されていますが、残念ながら本年度も本県分には該当作品はありませんでした。全国レベルは相当高いものと思われます。

講評会では、地元写真家の飯島志津夫氏（二科会写真部会友）が、スライドを用いて奨励賞作品を中心に懇切丁寧に説明されました。多数の生徒諸君が熱心に聞きいていましたが、プロのまねではなくもっと身近な高校生らしいテーマを見いだすように、と氏は力説されていました。

なお、全総文では毎年、全作品を白黒で収めた作品集を刊行しています。個々の皆さんにお見せすることができないのが残念です。



第14回全総文祭 8月4日（山梨県県民会館）



作品集（B5版、ページ数72）表紙

山口県高等学校文化連盟自主事業一覧

(◎昭和62年、○昭和63年、●平成元年、*平成2年度実施)

学 校 名	弘 中 孝 ピ ア ノ	マ リ ン バ	フルート バリトン	山 口 県 交 響 楽 団	巡 回 演 劇 教 室	東 京 金 管 五 重 奏 団	学 校 名	弘 中 孝 ピ ア ノ	マ リ ン バ	フルート バリトン	山 口 県 交 響 楽 団	巡 回 演 劇 教 室	東 京 金 管 五 重 奏 団
安 下 庄	○						美 祢 工				○		
久 賀	○						田 部				●		
岩 国						●	西 市				○		
岩 陽						●	豊 浦						
岩 国 商					◎		長 府						●
岩 国 工				*			下 関 西						
坂 上			○				下 関 南						
広 瀬			○				下 関 第 一						
高 森				*			下 関 中 央 工						
柳 井							下 関 工	◎				*	
柳 井 商							響				●		
柳 井 工					●		豊 北	◎					
熊 毛 南	○						日 置 農	○				*	
田 布 施 農							大 津	○					
田 布 施 工							水 産						
光	○						萩	○					
光 丘							萩 商	○				*	
熊 毛 北				*	○		萩 工						
下 松	○						徳 佐			分○	○		
華 陵	○				●		奈 古				●		
下 松 工				●			盲 学 校	○				●	
徳 山							聾 学 校						
徳 山 北		○					岩 国 養 護						
徳 山 商			○				田 布 施 養 護			分●	◎		
徳 山 工						●	防 府 養 護	◎		○			
鹿 野							宇 部 養 護				●		
新 南 陽	○						下 関 養 護		*				
南 陽 工		●		◎			下 関 商						
佐 波			○		●		高 水					◎	
防 府							柳 井 学 園					○	
防 府 西						●	聖 光				*		
防 府 商		定○				●	桜 ケ 丘						
山 口			定◎	*			三 田 尻 女 子						
山 口 中 央	○						多 々 良 学 園						
西 京	◎				○		中 村 女 子	○			*		
山 口 農							野 田 学 園	○					
宇 部	○				●		山 口 県 鴻 城						
宇 部 中 央		定●					宇 部 鴻 城						
宇 部 西							宇 部 女 子						
宇 部 商			○	◎			美 祢 中 央						
宇 部 工			*				香 川				●		
小 野 田		定○					サ ビ エ ル						
小 野 田 工		定○					早 鞆						
厚 狭			●				下 関 女 短 付	◎○					
美 祢					*		長 門						
大 嶺	◎				○		萩 光 塩 学 園						

分は分校 定は定時制

第14回全国高等学校総合文化祭記録

高文連事務局 窪田 恵

第14回全国高等学校総合文化祭は次表に示すように8月1日(水)から8日(水)までの間、山梨県甲府市の県民文化ホール大ホールを主会場に、富士吉田市、塩山市、石和町、白根町の3市2町において、パレードをはじめとして、総合開会式に続き12部門に分かれて盛大に開催された。

山口県からは別表のとおり、10部門に231名が参加して、日頃の活動の成果を十分に披露した。

山梨は裏富士、南アルプスに囲まれ、湖と森の美しい自然に恵まれた所である。厳しい暑さの中での祭典ではあったが、アメリカ、カナダ、中国、大韓民国の高校生約300名の参加もあり、「はばたけ創造の翼 いま山梨の空に」の大会テーマのもと、全国から1,410校13,989名の高校生が集い、若い情熱を燃焼させ、喜びと感動を分かち合った素晴らしい8日間であった。

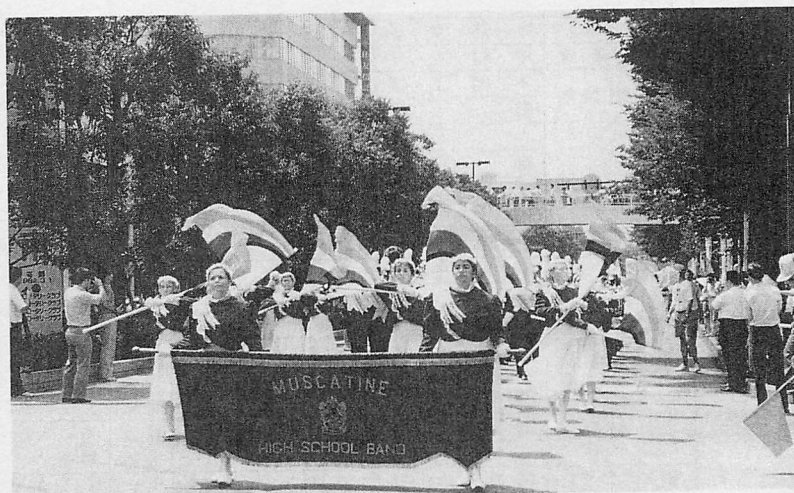
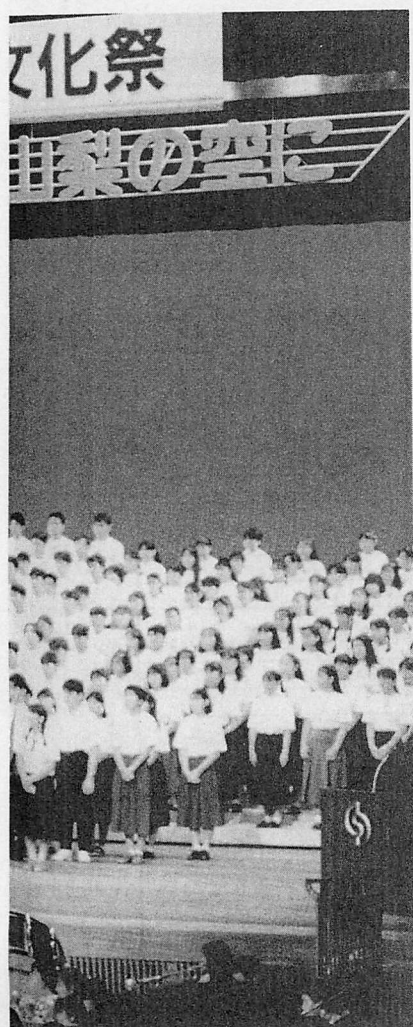


第14回全国高等学校総合文化祭 総合開会式 県民文化ホール大ホール

第14回全国高等学校総合文化祭



総合開会式 県民文化ホール大ホール



海外からの参加 (上)セントラルメモリアル高校(カナダ) (下)マスカティーン高校(アメリカ)

全国高等学校総合文化祭参加校一覧(山口県高文連)

第14回 山梨大会 スローガン『はばたけ創造の翼 いま山梨の空に』

部 門	高等学校名	出演人数	出品点数	備 考
合 唱	防 府	50		混声四部合唱「一つのメルヘン」他
吹 奏 楽	下 関 商	61		天の岩屋戸の物語による吹奏楽のための「神話」 指揮 中村芳喜
器楽・管弦楽	下 関 第 一	43		交響曲第八番「未完成」第一楽章 指揮 百合野政美
パレードマー チングバンド	佐 波	40		「フレッシュ・ウィンズ'90インYAMANASHI」 リーダー 山田真澄 演技指導 角中
パ レ ード	佐 波	(40)		演奏曲「エルキャピタン」他
日 本 音 楽	柳 井	15		楯城 護作曲 曲目「佐保姫」
吟 詠 剣 詩 舞	下関女短大付属高校	3		構成吟 15分 「山口県の歴史を詠う」
	下 関 工 業	3		
	聖 光	5		
美 術・工 芸	徳 山	1	1	油彩 B1サイズ「ひまわり」
	柳 井	1	1	油彩 自画像
	野 田	1	1	油彩 F30号「ランプのある静物」
書 道	下 関 西	1	1	臨書「懷素草書千字文」
	宇 部 商	1	1	半切(タテ) 隷書作品(七言対句)
	中 村 女 子	1	1	半切縦 題名「李太白憶旧遊詩巻」
写 真	岩 陽	2	2	全紙2点
	柳 井	2	2	題「現代高校生気質・しかられて」
	萩 商	1	1	題「光華」
囲 碁	岩 国	1		三木京子 全国優勝(91.1.27)
	下 関 西	1		
	徳 山	1		
	徳 山 工 業	1		
合 計	17校	235人	11点	

第15回 香川大会 テーマ『青春の夢さんさん いま香川の空と海に』

部 門	高等学校名	出演人数	出品点数	備 考
パ レ ード	岩 国 工 業	(50)		(マーチングバンド部門に参加)
	宇 部 女 子	(16)		(バトントワリング部門に参加)
合 唱	宇 部 中 央	30		「こまどりをころしたのはだれ？」より 3曲
吹 奏 楽	下 関 西	60		歌劇「サロメ」より「七つのヴェールの踊り」
器楽・管弦楽	岩 国	50		「セビリアの理髪師」
マーチングバンド	岩 国 工 業	50		(総合開会式に県代表1名出席)
バトントワリング	宇 部 女 子	16		
日 本 音 楽	中 村 女 子	7		「面影」
吟 詠 剣 詩 舞	下 関 工 業	5		構成吟「下関の歴史を詠う」
	聖 光	5		
美 術・工 芸	大 嶺	1	1	油彩「石膏像のある静物」
	柳 井	1	1	油彩「境内」
	萩 工 業	1	1	油彩「人間達」
	西 京	1	1	彫塑「友人頭像」
	宇 部 女 子	1	1	デザイン「南方守護」
書 道	宇 部 中 央	1	1	臨書「呉昌碩」
	野 田	1	1	臨書「蘭亭序」
	山 口 中 央	1	1	臨書「十七帖」
写 真	岩 陽	1	1	全紙「神社にて」
	岩 国 工 業	1	1	全紙「騎馬戦」
	柳 井	1	1	全紙「文化祭り」
	田 布 施 工 業	1	1	半切「背に風をうけて」
	三 田 尻 女 子	1	1	全紙「熟戦」
生活デザイン	厚 狭	0	2	テーブルセンター「野の秋」 タペストリー「春の山口」
合 計	17校(延べ24校)	実人員236	15点	

慶尚南道親善訪問文化交流演奏会

慶尚南道親善訪問文化交流を終えて

合唱部実行委員 中尾綾子
(宇部中央高等学校)

1. 団の結成

平成2年4月27日の企画運営委員会で、この行事が正式に決定し、計画がスタートした。5月下旬、第1回の合唱部会で具体的な活動についての協議が始まり、3月にむけての長い第1歩をふみ出した。はたして何人の生徒が参加してくれるかという不安も多少あったが、実際には125人の希望者があり嬉しかった。この人数をどうやって予算の枠内の人数にしばるかということが最初の難関であった。「希望する生徒全員に行かせてやりたい。不可能なら1人でも多くの生徒に行かせたい」という顧問の先生方の気持が白熱した論議をよんだが、結極、2年生を主体とし7校から56人の生徒と6人の実行委員の教員で団を結成することになった。希望したけれども参加できなかった多くの生徒には申し訳なく思っている。

2. 練習等

日曜・祝祭日を主として学校行事や実力考査などを考慮しながら日程を設定し、宇部中央、萩、野田学園、防府の各校と教育会館等を利用して、主管校制度をとり入れて練習にあたった。結局、出発式入れて10回の練習になったが、これには、文化庁後援の合唱講習会や、同行した日本音楽との合同練習も含んでいる。生徒にとっては早朝から夕方までハードな練習であったが、訪韓の目的と、全体の代表であるという認識でよくがんばったと思う。また他校の練習方法を知り、多くの指導者の指導を受けることができ有意義であったと多くの生徒が感想文に書

いている。実行委員にとっても、練習と併行して山積する諸準備や会議があり本当にハードで充実した練習会であった。

3. 曲目選定

目標を達成するにはどのような曲を歌ったらよいかを考慮し、合唱部の生徒へのアンケートなども参考にしながら、芸術性、民俗性、親しみやすく楽しい歌という観点から韓国の高校生との合同練習には、韓国の先生の意見も参考に選曲した。

4. 実行委員会

7校56人の生徒を6校6名の実行委員で引率することになり、総務部会、音楽部会、生活部会の3つを組織した。スタッフが少ないので全員で対処したことがほとんどであった。実行委員ではなかったが練習のため生徒引率で毎回練習に出席し、実行委員同様に協力して下さった岩国高校の福田先生には感謝の気持ちでいっぱいである。

5. 演奏会

KBSホール全部を埋めつくす1,800人の高校生の姿を見た時、これほどの人を動員して下さった韓国の関係諸機関に感謝の念と、いい演奏会にしたいという気持ちがよりいっそう湧き上がってきたのは私一人ではないと思う。雅やかな日本音楽の琴の音に始まりプログラムに従って予定通り順調に進んでいったが、特に印象に残っているのは、静かに聴くべき時には良く聴き、

楽しむ時には大いに楽しんでくれた韓国の高校生のマナーの良さである。温い拍手とすばらしい聴衆によって、演奏者はどれだけ励まされるかを身をもって体験できたと思う。また韓国の高校生の演奏は素朴であるが力強く、音楽に対する積極性と真摯な態度がうかがわれ感動した。何といってもクライマックスは両国出演者全員による合同演奏であろう。韓国の歌の「故郷の春」「サランヘ」から「ハレルヤ」と歌っていくにつれて、生徒たちは隣りに並んでいる人と手を取りあい感動と友情を深めていった。また、聴衆も参加して「サランヘ」を歌った時には、これまでのすべての苦労がふっとんでしまった。「音楽に国境はない」ということを再認識した。

6. 交歓夕食会

演奏会ですでに心が一つになっていたのに、交歓夕食会でうちとけるのにも全く時間はかからなかった。言葉は通じなくても、身ぶり手ぶりや片ことの英語で何とか対話もでき、生徒の感想文によると、もっと長い間話がしたかった、話に夢中になっていて気がついたら何も食べていなかった、文通の約束をした、もっと語学（ハングル語や英語）の勉強をしておけばよかったなど書かれている。75才？の慶一高校校長朴先生はあいさつで「この年になるまで、今日ほど感動したことはない」という意味のことをいわれたのが深く心に残っている。

7. 最後に

この行事を通じて、日韓の若い、21世紀をになう高校生に友情と友好の種はまかれた。この種が健やかに成長していくことを願っている。また山口県内の高校生同士の友情の輪が広がって、合唱を愛する人が多くなったことを嬉しく思う。

真の国際交流をするためには、いろいろと問題もあると思われるが、このようなすばらしい機会をつくって下さったあらゆる機関や多くの

人々に感謝する。また前回、吹奏楽で訪韓した時の記録等をずいぶん参考にさせてもらった。カムサハムニダ。

韓国を訪問して

生徒代表 防府高校2年 野村 哲哉

風の強い朝、甲板に出てみると、フェリーの上でひるがえる大韓民国の国旗と、日本とあまり変わらない風景が目の前に広がっていました。初めて外国にやって来たという感動が頭の中を満たして、しばらく立ちつくしていました。

これは、今年の3月、『山口県高等学校文化連盟慶尚南道親善訪問文化交流団』に生徒代表として参加し、初めて韓国を訪問した時のことです。

まず韓国に行き思ったことは、言葉、文字、交通様式が目立って日本と違うだけで、他はあまり変わらないということです。特に驚いた違いは、写真撮影に制限があるということです。韓国には、軍隊や軍事施設があるからという説明でしたが、このことから日本がいかに平和な国であるかということ、そして自ら何をしなければならぬかについて考えさせられました。

交歓演奏会では、みんな精一杯の演奏をしましたが、会場の人達の乗りのよさ、聴く態度のよさには感心させられました。韓国の音楽や合唱にも興味深いものがありましたが、演奏会で最も感動し、今でもはっきりとその感動を覚えているのは、初めて出会った日本と韓国の参加者全員が共に手を取り、「サランヘ」の大合唱をKBSホール全体に響かせ、「カムサハムニダ」と叫び、大拍手の内に演奏会を終了できたことです。その後の交歓夕食会では、韓国語での挨拶が理解してもらえたこと、身ぶり手ぶりの会話、とまどいも多々ありましたが楽しいひとときでした。

翌日、釜山市内を見学してフェリーに乗り帰国したわけですが、今まで遠く感じられたお隣の国、韓国がとても近く感じられ、もう一度

あの明るく、人間味あふれる高校生達と演奏会を開き、「サランヘ」の大合唱を今度は山口県に轟かせたい気がしました。

この交流事業を行うにあたりお世話してくださった、ご父兄を始め諸先生方に厚くお礼申し上げます。カムサハムニダ。

韓国、慶尚南道交歓演奏会に参加して

生徒代表 山口高校2年 三井 千春

釜山ターミナルで税関職員の方に韓国語で話しかけられ、ハングル文字の書かれた大きな看板を見た時、初めて、「韓国に来たんだ。」という実感が湧いた。それから3日間は驚きと感動の連続だったが、中でも一番印象に残っているのは、交歓演奏会である。

会場のKBSホールは、大変広くてきれいな所だった。リハーサルの際はガランとしていた1,800の席も、本番は韓国的高校生と一般の方で埋め尽くされ、圧倒される程であった。しかし、箏の演奏もそれほど緊張せずに弾け、私としては最高の出来だった。弾き終えた時に耳に飛び込んできた大きな拍手は忘れられない。また、第3部の日韓合同の最後のステージでは、韓国

の高校生と手をつないで一緒に「サランヘ」という曲を歌った。この時は、客席からも歌声が聞こえてきて、皆の心が本当に一つになったように思った。「音楽に国境はない。」とよく言うが、この時初めて自分の目、耳、つないだ手、体中でこの言葉を感じることができた。

市内観光や交歓夕食会では、韓国的高校生と、いろいろ話をしたが、皆明るく積極的で、同じ高校生なのに、私などと比べて、ずっと自分というものをしっかり持っているように思えた。特に、今回私は生徒副団長ということで、自分で責任を持って行動しなければならない場面が多々あったので、今までの私があまりに他人任せであったことを痛感した。

これからの国際社会においては、自分の意見を持ち、積極的に物事に取り組むことは大切なことだと思う。その意味で、今回の訪問は、私にとって、自分を変えるきっかけとなった。このような貴重な体験を支援して下さいった方々に感謝の気持ちを忘れず、国際社会の一員としての自覚を持った人間となれるよう、日々、努力していきたい。



親善交流演奏会 K. B. S. 昌原放送総局ホール

参考資料

第5回全国高等学校文芸コンクール都道府県別応募状況一覧

区 分	学 校 数	小 説	評論・研究	詩	短 歌	俳 句	文芸部誌	応 募 点 数
1 北海道	6	2		13	42	58		115
2 青 森	30	1		47	57	53		158 (2,553)
3 岩 手	29	21	3	90	120	120	3	357 (7,025)
4 宮 城								
5 秋 田	9	5		23	36	54		118 (149)
6 山 形	7	7	1	60		18	2	88
7 福 島	2		1	3				4
8 茨 城	8	1		22	3	3	3	32
9 栃 木	5	3		33			1	37
10 群 馬	7	5		27	8	12	3	55
11 埼 玉	9	6	1	31	3	6	5	52
12 千 葉	1			3				3
13 東 京	7	9		31	16			56
14 神 奈 川	7	1		13			4	18
15 山 梨	7	3	1	2	9	36		51 (721)
16 新 潟	2	1		23	15	14	1	54
17 富 山	1			17	3	3	1	24
18 石 川	5	10		7	113	76	1	207
19 福 井	8	3		4	12	11		30 (203)
20 長 野	2	1		5		12	1	19
21 岐 阜	5	8		10	6		4	28
22 静 岡	3	10		6		3	2	21
23 愛 知	7	7		12	6	3	2	30
24 三 重	—							
25 滋 賀	2			12			2	14
26 京 都	1	1						1
27 大 阪	4	3		12			3	18
28 兵 庫	4	7		14	3	3	1	28
29 奈 良	5	6		34	3	3	1	47
30 和 歌 山	2				12	17	1	30
31 鳥 取	1	1						1
32 島 根	—							
33 岡 山	1			6				6
34 広 島	7			8	3		5	16
35 山 口	9	18		63	3	18	5	107
36 徳 島	—							
37 香 川	2	2		8		3	2	15
38 愛 媛	4	3		18			1	22 (120)
39 高 知	—							
40 福 岡	9	5		24	18	6		53
41 佐 賀	2	3		11				14
42 長 崎	2	5		21				26
43 熊 本	3	2		1	3	3	2	11
44 大 分	10	6		9	44	24		83 (221)
45 宮 崎	—							
46 鹿 児 島	3	2		2	3		2	9
47 沖 縄	2				6	48		54 (1,318)
合 計	240	168	7	726	546	607	58	2,112 (13,549)

()は県又は学校段階での応募数を含めた数

部 門 別 応 募 状 況 一 覧

区 分	応募点数	応募者数 人	公 私 別		学 年 別				男 女 別		備 考 人
			公	私	1	2	3	4	男	女	
小 説	168 (150)	165 (148)	149	16	42	79	44	0	52	113	
文芸評論 文芸研究	7 (10)	7 (10)	7	0	1	4	2	0	4	3	
詩	726 (518)	463 (346)	409	54	170	159	134	0	73	390	
短 歌	546 (473)	241 (284)	231	10	89	80	69	3	61	180	
俳 句	607 (781)	352 (501)	344	8	101	89	159	3	108	244	
文芸部誌	58 (58)	58 (58)	46	12							
合 計	点 2,112 (1990)	人 1,286 (1347)	1186	100	403	411	408	6	298	930	

() 前回

入 賞 作 品 数 一 覧

区 分	応募点数	応募者数	最優秀賞	優 秀 賞	優 良 賞	入 選	合 計
小 説	168	165	◎ 1	6	8	10	25
文芸評論 文芸研究	7	7			2	1	3
詩	726	463	1	5	10	15	31
短 歌	546	241	1	6	10	14	31
俳 句	607	352	◎ 1	5	9	15	30
文芸部誌	58	58	◎ 1 特別賞 1	3	7	奨励賞 5	17
合 計	点 2,112	人 1,286	5 特別賞 1	25	46	60	137

◎印 文部大臣奨励賞

第 1 回 (昭和61年度) 17都道府県 110校 890点 630人
 第 2 回 (昭和62年度) 30都道府県 202校 1,977点 1,297人
 第 3 回 (昭和63年度) 35都道府県 210校 1,830点 1,235人
 第 4 回 (平成元年度) 39都道府県 235校 1,990点 1,347人
 第 5 回 (平成2年度) 42都道府県 240校 2,112点 1,286人

第5回全国高等学校 文芸コンクール 受賞作品

詩 部 門	最優秀賞	山口県立防府高等学校 2年	福 嶋 祥 子	『海』
小 説 部 門	優 秀 賞	山口県立防府高等学校 2年	山 科 静 枝	『夜明け』

詩 部 門

〈最優秀賞〉受賞作品

海



山口県立防府高等学校2年

福 嶋 祥 子

わたしの体の中に海がある。
温かくて 逃れようのない
それは確かな感触だ。
わたしを造る細胞のひとつひとつに
潮の匂いがしみついている。

焦りと倦怠と不安。
残酷な現実が散乱しているのだ、
ゆがんだ地球の小さな浜辺に。
テクノポリスが残骸を増やす。
悪循環はドミノだ。

波間に紛失したのは
とても大事なものだっのに
何だったのか思い出せない。

懐しい音を聞きながら
わたしはゆっくりと歩き始めた。
足の裏に自我の破片。
紅い雫がしたたる。
掌が二つ
混濁した空をかくだけ。

なんだか よく分からない力が
引力みたいに大きな力が
行く手を阻もうとするけど
歩くしかない。

散らばった真実たちを
不器用に模索すると、
波の音がリフレインする。

あらゆるものたちを超えて
わたしはわたしでありたい、と。
わたしはわたしでありたい、と。

体の中に海の音を聞く。

全国高等学校文化連盟 基本調査

平成2年3月調査

		全国高総文祭への推薦方法										第13回岡山大会の場合		今後の参加部門の増		参加希望部門
		演劇	合唱	吹奏	器楽	日音	吟詠	郷芸	マバ	美工	書道	写真	放送	考えている	考えていない	
1	北海道高等学校文化連盟	選	選	選						選	選	選	選		○	
2	青森県高等学校文化連盟	選	選	選					推	選	選	選	選		○	
3	岩手県高等学校文化連盟	選	選	選	選	輪	選	選	輪	選	選	選	選	○		演劇
4	宮城県高等学校文化連盟					希				選	選	選		○		
5	秋田県高等学校文化連盟							選		選	選	選				
6	山形県高等学校文化連盟	選	選	選	選					選	選		選	○		器楽
7	福島県高等学校文化連盟	選		希						輪	輪	選	選	○		音楽関係各部門
8	茨城県高等学校文化連盟	選	選	選	選	選		選	選	輪	輪	選		○		放送
9	栃木県高等学校文化連盟	選	輪	輪	輪	輪	希	希	輪	選	選	選	選	○		合唱、吹奏、器楽各部門
10	群馬県高等学校文化連盟	選	輪	輪						輪	輪	輪		○		
11	埼玉県高等学校文化連盟	選	選	選	選	選			選	輪	輪			○		郷芸、吟詠、放送
12	千葉県高等学校文化連盟															
13	東京都高等学校文化連盟	選	選	選	選	選	推		推	選	選	選	選	○		郷芸
14	神奈川県高等学校文化連盟		選	選						選	選	選	選	○		演劇
15	山梨県高等学校文化連盟	選	選	選	他	選	選	選	選	選	選	選	選		○	
16	新潟県高等学校文化連盟	選	選			選				選	選	選	選		○	
17	富山県高等学校文化連盟		選							選	選	選	選	○		吹奏、演劇
18	石川県高等学校文化連盟	選	選	選		選	選		選	選	選	選	選		○	
19	福井県高等学校文化連盟		選	選						輪	輪	輪			○	
20	長野県高等学校芸術文化協議会	選	推	推	選	推	希	希	希	推	推	希	選	○		マーチング、バトン、写真
21	岐阜県高等学校文化連盟	選	選	選	選	選	選	希	選	選	選	選	選		○	
22	静岡県高等学校文化連盟		輪	輪	輪	輪			輪	選	選	選	輪	○		
23	愛知県高等学校文化連盟	選	希	希	希	希	希	希	希	選	選	選	選			
24	三重県高等学校芸術文化連盟		選							輪	輪	選	選		○	
25	滋賀県高等学校芸術連盟	選				希			希	選	輪	希	選		○	
26	京都府高等学校芸術文化連盟					希			選	輪	輪	選		○		
27	大阪府高等学校芸術文化連盟	推	推	推	推	推	推		推	選	選	選	推	○		
28	兵庫県高等学校芸術文化連盟	選	選	選		選	希		選	選	選				○	
29	奈良県高等学校文化連盟			希	輪	希			輪	輪	輪	選		○		放送
30	和歌山県高等学校文化連盟		輪		選					輪	輪	選		○		
31	鳥取県高等学校文化連盟		選	選						選	選	選			未定	
32	島根県高等学校文化連盟	選	推	推						選	選	選	選		○	
33	岡山県高等学校芸術連盟	選	選	推	希	選	選	推	推	選	輪	選	選		○	
34	広島県高等学校芸術文化連盟	選	選	推	推	推			推	推	推	推			○	
35	山口県高等学校文化連盟	選	選	選	選	選	選		希	選	選	選		○		放送
36	徳島県高等学校文化連盟	選	輪	輪	輪					輪	輪	選			○	
37	香川県高等学校文化連盟	選	他	他	他		他	他	他	他	他	選	選	○		日本音楽
38	愛媛県高等学校文化連盟	選	選	選	他	選	他	他	選	選	選	選	他	○		器楽、吟詠、郷芸、放送
39	高知県高等学校芸術団体協議会															
40	福岡県高等学校芸術文化連盟	選	選	選	選					選	選	選	選	○		放送、マーチング
41	佐賀県高等学校文化連盟			選						選	選					
42	長崎県高等学校文化連盟									選	選			○		合唱、吹奏、写真
43	熊本県高等学校文化連盟	選	選	選	選	輪	輪	輪	選	選	選	選	選		○	
44	大分県高等学校文化連盟	選	選	選		選	選	輪	選	選	選		選	○		郷芸
45	宮崎県高等学校文化連盟			選							選	選	選	○		放送
46	鹿児島県高等学校文化連盟	選		選						選	選			○		
47	沖縄県高等学校文化連盟		他	他	他			他	他	他	他		他	○		演劇、日本音楽、吟詠

選－選抜 輪－輪番 希－希望 推－推薦 他－専門部協議等

全国高等学校文化連盟 基本調査

		設 立 年 月 日	校 数		会 費				
			全学校数	加盟校数	全日制	定通制	盲聾養	教職員	入会金
1	北海道高等学校文化連盟	S31.11.22	412	325	60	定10、通1	10	0	0
2	青森県高等学校文化連盟	S54.4.25	102	83	100	50	50	0	0
3	岩手県高等学校文化連盟	S56.7.12	99	99	350	50	50	350	0
4	宮城県高等学校文化連盟	H1.11.29	119	95	0	0	0	0	0
5	秋田県高等学校文化連盟	S58.6.1	68	68	100	50	50	0	全日 200
6	山形県高等学校文化連盟	S52.10.6	80	73	150	80	80	0	0
7	福島県高等学校文化連盟	S62.6.17	110	109	150	80	80	0	0
8	茨城県高等学校文化連盟	S62.6.19	150	134	0	0	0	0	0
9	栃木県高等学校文化連盟	S53.10.2	90	86	160	80	80	全160、定80	0
10	群馬県高等学校文化連盟	S61.7.4	96	87	0	0	0	0	0
11	埼玉県高等学校文化連盟	S58.11.16	235	192	0	0	0	0	0
12	千葉県高等学校文化連盟	S63.11.5	224	150	50	0	0	0	0
13	東京都高等学校文化連盟	S52.7.15	518	331	0	0	0	0	0
14	神奈川県高等学校文化連盟	H1.6.2	289	77	100	0	0	0	0
15	山梨県高等学校文化連盟	S56.6.25	55	48	300	定100 通一括5千	50	0	0
16	新潟県高等学校文化連盟	S61.11.12	136	93	0	0	0	0	0
17	富山県高等学校文化連盟	H1.8.11	72	66	100	1校2千円 5校一括1万	1校1千円	0	0
18	石川県高等学校文化連盟	S26.4.1	76	76	150	50	50	0	0
19	福井県高等学校文化連盟	S45.5.11	42	38	100	0	0	0	0
20	長野県高等学校芸術文化協議会	S59.7.3	106	106	0	0	0	0	0
21	岐阜県高等学校文化連盟	S54.6.30	107	93	100	0	0	0	0
22	静岡県高等学校文化連盟	S63.2.20	157	155	100	100	50	0	0
23	愛知県高等学校文化連盟	S60.12.25	258	183	80	0	0	0	0
24	三重県高等学校芸術文化連盟	S61.10.1	88	59	0	0	0	0	0
25	滋賀県高等学校芸術連盟	S54.6.15	61	61	0	0	0	0	0
26	京都府高等学校芸術文化連盟	S63.3.7	107	84	0	0	0	0	0
27	大阪府高等学校芸術文化連盟	S61.4.1	304	301	0	0	0	0	0
28	兵庫県高等学校芸術文化連盟	S55.5.1	240	200	0	0	0	0	0
29	奈良県高等学校文化連盟	S61.5.20	71	71	50	定10	0	0	0
30	和歌山県高等学校文化連盟	S57.6.1	55	42	100	50	50	0	0
31	鳥取県高等学校文化連盟	S61.11.12	36	36	100	50	0	0	0
32	島根県高等学校文化連盟	S26.7.20	58	45	250	0	150	250	0
33	岡山県高等学校芸術連盟	S62.4.25	115	90	100	0	0	0	0
34	広島県高等学校芸術文化連盟	S60.7.13	152	112	0	0	0	0	0
35	山口県高等学校文化連盟	S62.4.1	93	91	1年 200 2.3年 100	50	50	0	0
36	徳島県高等学校文化連盟	S56.4.1	49	47	80	30	30	全日80、 他30	0
37	香川県高等学校文化連盟	S59.4.12	51	47	200		30	100	0
38	愛媛県高等学校文化連盟	S62.4.22	72	71	100	50	50	100	0
39	高知県高等学校芸術団体協議会	S53.4.30							
40	福岡県高等学校芸術文化連盟	S61.9.24	208	169	100	50	50	0	0
41	佐賀県高等学校文化連盟	H1.5.29	51	40	60、110、 170	定通一括60 8千	60	0	0
42	長崎県高等学校文化連盟	H1.4.19	89	87	100	50	50	0	0
43	熊本県高等学校文化連盟	S56.6.5	89	84	200	50	50	0	0
44	大分県高等学校文化連盟	S26.6.14	81	79	280	140	140	0	0
45	宮崎県高等学校文化連盟	S54.7.18	69	55	300	150	150	0	0
46	鹿児島県高等学校文化連盟	H2.2.11	107	76	200 離島 100	50	50	0	0
47	沖縄県高等学校文化連盟	S54.5.15	64	64	300	150	0	0	0

(1人当たり) 単位：円		会費の値上げ			会費総額 (単位：千円)	県負担金 及び補助 金 総 額 (単位：千円)	内 訳 (単位：千円)			
備 考		元年度	2年度	備 考			県高総文祭	全国高総文祭 派遣	運営費等	そ の 他
		同	同		14,296	1,345	1,345			
		同	同		6,610	4,423	3,400	848	175	
		同	同		22,706	2,708	1,000	11,708		
学校単位 3千円		同	同		285	3,000		750	2,250	
入会金 定通100、盲聾養100		同	同		8,538	853		133		県費、派遣費 720
		同	同		7,569	11,094	700	3,415	665	6,314
		同	同		13,397	3,642	3,500			142
学校単位 5千円		同	同		670	8,597	3,469	5,128		
		同	同		15,542	2,500				
学校規模別5～1万円の5段階		同	同		3,200	1,164		914	250	
学校単位2万円、部単位4千円の2本立		同	値上げ	5万円、8千円	7,768	14,541	3,513	10,287	741	
1部2千円		同	同		10,472	13,175				
1部3千円で専門部加盟、各専門部より6万円を徴収		同	値上げ	音楽のみ 4千円	360	19,176	11,573	7,410	193	
		同	同		9,454	4,500	4,500			
		値上げ	値上げ		11,100	県費より直接支払				
学校規模別6ランク+専門部所屬加盟費1人20円、値し、定・通・特殊は半額		同	同		5,940	4,000				
		同	同							
		値上げ	同		7,778	2,814	2,500	174		140
		同	同		4,136	560			560	
部年各千円		同	同		10	75,373	3,250	他各都大会 16,471	500	55,152
		同	同		11,383	2,251	1,597	309	345	
		同	同		17,192	27,811	3,100	2,500	16,882	5,329
		同	同		18,560	6,000				
1部2千円(盲聾養500円)1校200円		同	同		1,782	6,068	2,500	898		2,670
1校2千円、12クラス以下・定・障害児学校千円		同	値上げ	5千円、2千円	107	4,523				
学校単位 1万円、部単位 千円		同	同		1,163	7,779	7,642	137		
学校単位 1万円		同	同		2,740	7,528	3,350	1,100	1,128	1,950
1専門部 5千円		同	値上げ	検討中	40	8,685				
		同	値上げ	100円	3,005	8,734				
		同	同		4,450	4,344	1,948	2,126	270	
		同	同		2,694	1,800				
		同	同		8,045	2,000	1,500	500		
		同	同		9,213	0				
学校規模別		同	同							
学校分担金を別に徴収 学級数×100		同	同		9,765	5,333	2,200	3,133		
		同	同		2,685	800				
平成～3 全国大会のため新入生のみ特別徴収		同	同		21,239	1,800	900	600		300
		同	同		7,345	7,226	5,166	2,060		
		同	値上げ	200円、100円	18,278	3,000	6,400	2,000	6,800	7,800
1部門-60 2部門-110 3部門-170			同		5,155	2,700				
			同		7,324	7,100	3,000			4,100
通信制 1校3千円		同	同		15,900	11,252	5,000	4,752		1,500
		同	同		15,600	2,300	1,000	1,000		300
		同	値上げ	400円、200円	19,912	12,300	9,800	2,500		
		同	同		12,389	3,300	1,500	1,800		
		同			18,441	67,704	13,722	34,001	18,336	1,645

第15回全国高等学校総合文化祭開催要綱

1 趣 旨

全国都道府県代表の高等学校生徒による芸術文化活動の発表会を総合的に開催し、創造活動の向上充実を図るとともに相互の交流を深めることにより、芸術文化活動の振興に資する。

2 主催・後援・協賛

- (1) 主催／文化庁、全国高等学校文化連盟、香川県、香川県教育委員会、高松市、高松市教育委員会、丸亀市、丸亀市教育委員会、坂出市、坂出市教育委員会、琴平町、琴平町教育委員会、香川県高等学校文化連盟
- (2) 後援／都道府県教育長協議会、全国高等学校長協会、香川県高等学校長協会
- (3) 協賛／全日本合唱連盟、全日本吹奏楽連盟、日本三曲協会、日本吟詠詩舞振興会、全日本アマチュア演劇協議会、全日本マーチングバンド・バトントワリング連盟、全国高等学校視聴覚教育研究協議会、全日本書写書道教育研究会、朝日新聞社、日本放送協会、岡山放送、共同通信社、高知新聞社、産経新聞社、山陽新聞社、山陽放送、四国新聞社、時事通信社、瀬戸内海放送、テレビせとうち、徳島新聞社、西日本放送、日本経済新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、香川県商工会議所連合会、香川県商工会連合会、四国旅客鉄道、高松琴平電気鉄道、コトデンバス、琴平参宮電鉄、大川自動車

3 期 間／平成3年8月1日(木)～8月4日(日)

4 開催行事／(1) 総 合 開 会 式……………香川県県民ホール

(2) パ レ ード……………高松市内

5 開催種目及び会場／(1) 合 唱……………香川県県民ホール

(2) 吹 奏 楽……………香川県県民ホール

(3) 器 楽・管 弦 楽……………香川県県民ホール

(4) 日 本 音 楽……………高松市民会館

(5) 吟 詠 剣 詩 舞……………高松市民会館

(6) 郷 土 芸 能……………旧金毘羅大芝居

(7) 演 劇……………丸亀市民会館

(8) マーチングバンド・バトントワリング……………高松市総合体育館

(9) 放 送 文 化……………坂出市民ホール

(10) 美 術 ・ 工 芸……………高松市美術館

(11) 書 道……………香川県文化会館

(12) 写 真……………坂出市民美術館

6 協賛種目及び会場／生活デザイン……………RNCホール

7 内 容

(1) 式典・交歓会、パレード

(2) 合唱、吹奏楽、器楽・管弦楽、日本音楽、吟詠剣詩舞、郷土芸能、マーチングバンド・バトントワリング……………各都道府県及び各政令指定都市の教育委員会から推薦された優秀校による演奏及び演技発表

(3) 演劇……………ブロック代表による演劇上演、講習、研究協議

(4) 美術・工芸、書道、写真……………各都道府県教育委員会から推薦された優秀作品の展示

(5) 放送文化……………各都道府県及び各政令指定都市の教育委員会から推薦された優秀校による演技発表及び優秀作品の映写

(6) 生活デザイン……………各都道府県教育委員会から推薦された家庭科関係(手芸・服飾等)の優秀作品及び香川県高等学校文化連盟生活デザイン専門部の作品の展示

8 実施組織／行政機関、教育機関、関係団体からなる実行委員会を設置し、この事務局を香川県教育委員会事務局文化行政課に置く。

9 経 費／全国高等学校総合文化祭の開催に要する費用は、文化庁、全国高等学校文化連盟、香川県及び香川県高等学校文化連盟等が負担する。

全国高文連専門部の各都道府県所属一覧

平成2年調査

都 道 府 県 別 団 体 名 称	所 属 専 門 部													
	演 劇	合 唱	吹 奏 楽	器 楽 管 弦 楽	日 本 音 楽	吟 詠 剣 詩 舞	郷 土 芸 能	マ ー チ ン グ バ ン ド ・ パ ン ト ン グ	美 術 工 芸	書 道	写 真	放 送	囲 碁 基	将 棋
北海道高等学校文化連盟	○	○	○	○					○	○	○	○		
青森県高等学校文化連盟	○	○	○						○	○	○	○	○	○
岩手県高等学校文化連盟	○	○	○	○	○	○	○	(○)	○	○	○	○	○	○
宮城県高等学校文化連盟	○	○	○		○				○	○		○	○	○
秋田県高等学校文化連盟	○	○	○				○		○	○	○	○	○	
山形県高等学校文化連盟	○	○	○	○					○	○		○		
福島県高等学校文化連盟	○	○	○	○					○	○	○	○	○	○
茨城県高等学校文化連盟	○		○					(○)	○	○	○	○	○	○
栃木県高等学校文化連盟	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
群馬県高等学校文化連盟	○	○	○						○	○	○			
埼玉県高等学校文化連盟	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
千葉県高等学校文化連盟	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	
東京都高等学校文化連盟	○		○		○				○	○	○	○	○	
神奈川県高等学校文化連盟	○		○						○	○	○	○	○	○
山梨県高等学校文化連盟	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
新潟県高等学校文化連盟	○	○	○		○				○	○	○	○		
富山県高等学校文化連盟	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
石川県高等学校文化連盟	○	○		○		○				○		○	○	
福井県高等学校文化連盟	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○
長野県高等学校芸術文化協議会	○	○	○	○	○		(○)		○	○		○	○	○
岐阜県高等学校文化連盟	○	○	○		○	○		○	○	○	○		○	
静岡県高等学校文化連盟	○	○	○						○	○	○	○	○	○
愛知県高等学校文化連盟	○		○	○	○	○	○	(○)	○	○	○	○	○	○
三重県高等学校芸術文化連盟	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○		
滋賀県高等学校芸術連盟	○	○	○	○				○	○	○	○		○	○
京都府高等学校芸術文化連盟	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○		
大阪府高等学校芸術文化連盟	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		
兵庫県高等学校芸術文化連盟	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○		
奈良県高等学校文化連盟	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○		
和歌山県高等学校文化連盟	○	○	○	○	○				○	○	○		○	○
鳥取県高等学校文化連盟	○	○	○		(○)				○	○		○		
島根県高等学校文化連盟	○		○						○	○	○			
岡山県高等学校芸術連盟	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
広島県高等学校芸術文化連盟	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	
山口県高等学校文化連盟	○	○	○	○	○				○	○	○			
徳島県高等学校文化連盟	○		○						○	○	○			
香川県高等学校文化連盟	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
愛媛県高等学校文化連盟	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高知県高等学校芸術団体協議会	○	○	○						○	○	○			
福岡県高等学校芸術・文化連盟	○	○		○			○		○	○	○	○		
佐賀県高等学校文化連盟	○	○	○						○	○		○		
長崎県高等学校文化連盟	○		○						○	○	○	○		
熊本県高等学校文化連盟	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	
大分県高等学校文化連盟	○	○	○	(○)	○	○	(○)	(○)	○	○		○		
宮崎県高等学校文化連盟	○	○	○						○	○	○			
鹿児島県高等学校文化連盟	○		○						○	○				
沖縄県高等学校文化連盟	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
合 計	47	47	47	32	27	18	15	22	47	47	39	34	25	17

山口県高等学校文化連盟 平成元年度決算書

収入総額 支出総額 差引残額
 16,670,278 - 15,557,810 = 1,112,468

収入の部

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	増減(△減)	内 訳
繰 越 金	1,443,485	1,443,485	0	
会 費	9,600,000	9,575,088	△ 24,912	全日制(1年) 200円 (2,3年) 100円 定時制 50円 盲聾養 50円
学校分担金	166,500	173,600	7,100	1,665学級×100円
補 助 金	5,430,000	5,471,200	41,200	山口県 (県総文 全国総文派遣費 全国高文連補助金)
雑 収 入	8,000	6,905	△ 1,095	利息
合 計	16,647,985	16,670,278	22,293	

支出の部

区 分	予 算 額	決 算 額	増減(△減)	内 訳
運 営 費	920,000	665,305	254,695	通信費・事務用品他
会 議 費	1,600,000	1,887,443	△ 287,443	企画運営委員会・理事会 事務局旅費・全総文引率旅費 全国専門部理事会旅費
事 業 費	8,774,000	8,485,308	288,692	県総文 開幕式典・音楽部門 日本音楽、吟詠・演劇・囲 碁・展示関係部門 自主事業
活動補助費	4,450,000	4,429,219	20,781	全総文派遣(277名) 全国高文連会費分担金
予 備 費	903,985	90,535	813,450	テープカット用紙他
合 計	16,647,985	15,557,810	1,090,175	

平衡資金会計

	予 算	前 年 度	増減(△減)	現 在 高
平 衡 資 金	0	2,000,000	△ 2,000,000	2,000,000

3月31日山口中央高校にて監査

上記の通り相違ありません。

小松英三・福田昌章

山口県高等学校文化連盟 平成2年度決算書 平成3年度予算書

収入総額 支出総額 差引残額
22,414,832 - 21,464,401 = 950,431

収入の部

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	増減(△減)	内 訳	予 算 額	内 訳
繰 越 金	1,112,468	1,112,468	0		950,431	
会 費	9,500,000	9,496,200	△ 3,800	全日制(1年) 200円 (2,3年) 100円 定時制 50円 盲聾養 50円	9,270,000	全日制(1年) 200円 (2,3年) 100円 定時制 50円 盲聾養 50円
学校負担金	167,000	172,000	5,000	1,720学級×100円	164,000	1,640学級×100円
補 助 金	8,918,000 内訳 2,200,000 5,093,000 1,625,000	8,996,200 内訳 2,200,000 5,093,000 1,625,000 78,200	78,200	県総文 全総文派遣費 国際交流事業補助金 全国高文連役員派遣費	5,900,000 内訳 2,200,000 3,700,000	県総文補助金 全総文補助金
平衡資金から	1,500,000	1,500,000	0		500,000	
雑 収 入	8,000	1,137,964	1,129,964	利息 大正海上(100万)	10,000	利息
合 計	21,205,468	22,414,832	1,209,364		16,794,431	

支出の部

区 分	予 算 額	決 算 額	増減(△減)	内 訳	予 算 額	内 訳
運 営 費	600,000	812,204	212,204	事務用品費 通信費 全国高文連分担金	750,000 内訳 250,000 331,182 168,818	事務用品費 通 信 費 分 担 金
会 議 費	2,800,000	3,306,072 内訳 413,608 885,570 447,648 662,030 897,216	506,072	企画運営・専門部理事長会議 事務局旅費 全総文専門部理事会 全総文引率旅費 国際交流事業関係	1,580,000 内訳 400,000 380,000 800,000	
事 業 費	17,610,000 内訳 4,200,000 5,500,000 2,200,000 3,500,000 1,210,000 1,000,000	17,311,125 内訳 4,080,541 5,263,473 2,155,556 4,523,891 778,404 509,260	△ 298,875	県総文 全総文生徒旅費 自主事業(12校実施) 国際交流(韓国慶尚南道) 専門部会費(8部門) 印刷費(高文連会報他)	14,360,000 内訳 5,200,000 4,370,000 1,980,000 1,310,000 1,500,000	県 総 文 全 総 文 自 主 事 業 専 門 部 会 費 印 刷 費
予 備 費	195,468	35,000	△ 160,468		104,431	
合 計	21,205,468	21,464,401	258,933		16,794,431	

平成2年度平衡資金会計現在高 500,000円(郵便貯金)

上記の通り相違ありません。 平成3年4月16日 高橋 眞・伊藤 彰

平成2年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧表

職 名	氏 名	支 部 ・ 部 門	所 属 校
会 長 副 会 長 " " " "	繁 富 健 治 安 本 良 夫 小 田 正 弘 津 田 正 人		山口中央高校 岩国高校 下関西高校 中村女子高校
支 部 長 " " " " " " " " " "	安 本 良 夫 佐 々 川 武 田 中 克 繁 中 治 河 富 登 橋 中 賢 松 本 嗣 郎	岩 国 支 部 柳 井 支 部 徳 山 支 部 山口中央高校 宇 部 支 部 下 関 支 部 萩 北 支 部	岩 国 高 校 柳 井 高 校 徳 山 高 校 山口中央高校 宇 部 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校
専 門 部 会 長 " " " " " " " " " " " " " "	作 間 源 治 橋 本 賢 郎 藤 本 正 信 下 本 俊 郎 古 河 谷 成 津 田 信 人 京 野 正 雄 高 野 武 雄 下 橋 真 郎 安 河 本 夫 田 中 克	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マ ー チ ン グ バ ン ド ・ パ マ ー チ ン グ バ ン ド ・ パ 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門	厚 狭 高 校 下 関 南 高 校 宇 部 中央 高 校 防 府 高 校 宇 部 女子 高 校 中 村 女子 高 校 下 関 工 業 高 校 宇 部 商 業 高 校 防 府 高 校 岩 国 高 校 徳 山 高 校
専 門 部 理 事 長 " " " " " " " " " " " " " " " "	西 村 司 松 永 忠 雄 中 尾 綾 子 重 広 雄 花 村 照 中 野 子 辛 野 樹 岸 嶋 勤 荒 瀬 宏 環 乃 琢 司 川 崎 長 郎	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マ ー チ ン グ バ ン ド ・ パ マ ー チ ン グ バ ン ド ・ パ 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門	厚 狭 高 校 下 関 南 高 校 宇 部 中央 高 校 防 府 高 校 宇 部 女子 高 校 中 村 女子 高 校 下 関 工 業 高 校 宇 部 商 業 高 校 防 府 高 校 岩 国 高 校 徳 山 高 校
監 事 " "	伊 藤 彰 高 橋 真		防 府 商 業 高 校 宇 部 商 業 高 校
事 務 局 長 総 務 部 庶 務 部 計 画 部	窪 田 恵 甲 田 夫 中 邑 立 古 屋 元 子		山口中央高校 山口中央高校 山口中央高校 山口中央高校

平成3年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧表

職 名	氏 名	支 部 ・ 部 門	所 属 校
会 長 副 会 長 " " " "	繁 富 健 治 竹 林 陸 夫 小 田 正 弘 津 田 正 人		山口中央高校 岩 国 高 校 下 関 西 高 校 中村女子高校
支 部 長 " " " " " " " " " "	竹 林 陸 夫 藤 本 慎 新 庄 幸 雄 繁 富 治 山 田 悟 三 浦 寛 松 木 夫 嗣	岩 国 支 部 柳 井 支 部 徳 山 支 部 山口中央高校 宇 部 支 部 下 関 支 部 萩 支 部	岩 国 高 校 柳 井 高 校 徳 山 高 校 山口中央高校 宇 部 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校
専 門 部 会 長 " " " " " " " " " " " " " "	三 戸 更 生 三 浦 寛 字 多 村 譲 下 河 俊 郎 古 谷 信 成 津 田 正 人 京 野 武 雄 田 中 河 克 下 河 本 俊 郎 藤 新 庄 幸 雄	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マ ー チ ン グ バ ン ド ・ パ ン ト ワ ー リ ン グ 部 門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門	厚 狭 高 校 下 関 南 高 校 宇 部 中 央 高 校 防 府 高 校 宇 部 女 子 高 校 中 村 女 子 高 校 下 関 工 業 高 校 山 口 高 校 防 府 高 校 柳 井 高 校 徳 山 高 校
専 門 部 理 事 長 " " " " " " " " " " " " " "	三 藤 真 人 松 永 忠 雄 中 尾 綾 子 重 広 昭 雄 花 村 慈 照 中 野 靖 子 中 野 雅 行 師 井 俊 夫 荒 瀬 川 明 宏 藤 川 崎 長 徳 川 崎 門	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マ ー チ ン グ バ ン ド ・ パ ン ト ワ ー リ ン グ 部 門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門	厚 狭 高 校 下 関 南 高 校 宇 部 中 央 高 校 防 府 高 校 宇 部 女 子 高 校 中 村 女 子 高 校 下 関 工 業 高 校 山 口 高 校 防 府 高 校 柳 井 高 校 徳 山 高 校
監 事 " "	伊 藤 彰 浦 川 弘 幸		防 府 商 業 高 校 宇 部 商 業 高 校
事 務 局 長 総 務 計 庶 務 計	斎 藤 真 久 甲 田 俊 夫 中 邑 立 夫 古 屋 元 子		山口中央高校 山口中央高校 山口中央高校 山口中央高校

全国高文連の歌

全国高等学校文化連盟制定
向 川 栄 美 作 詞
乗 松 美 紀 作 曲



1. てをのばせば ほら きつと だれかがささえて くれる
2. よびかければ ほら きつと だれかがこたえて くれる



みーわたせーば ほら なかまがいつでもそばにいる きみ
こころをひらけ ば ほら なかまはいつでもまっている きみ



はひとりじゃない さああるきだ そ う
はひとりじゃない さあはばた そ う



ぼくらのぶんかを つく る た め 一 に
ぼくらのぶんかを きづ く た め 一 に

全国高文連の歌

一、手を伸ばせば ほら

きつと誰かが支えてくれる

見渡せば ほら

仲間がいつでもそばにいる

君は一人じゃない

さあ 歩きだそう

僕等の文化を創るために

二、呼びかければ ほら

きつと誰かが応えてくれる

心を開けば ほら

仲間がいつでも待っている

君は一人じゃない

さあ 翔こう

僕等の文化を築くために

編集後記

平成2年度の山口県高等学校文化連盟の事業も3月末の韓国慶尚南道親善訪問文化交流演奏会を最後に幕を閉じました。しかし、いささかの間を置くこともなく、新年度の山口県高文連の役員改選も行なわれ、すでに平成3年度の事業も開始されています。

集録「高文連」第2号を遅ればせながらお届けします。平成2年度の活動を11部門の理事長を中心に執筆していただきました。ご執筆いただいた方々に厚くお礼申しあげます。今回は3月末に実施された韓国慶尚南道への国際交流事業についても集録したため、刊行が少し遅れました。深くお詫びいたします。

高文連の事業も年々拡大充実しつつあります。今後は活動報告・参加報告等で紙面をさらに豊かにしたいと考えておりますので、一層のご協力をお願いいたします。

山口県高等学校文化連盟集録

「高文連」編集委員

合 唱	中 尾 綾 子 (県立宇部中央高等学校)
マーチングバンド・ バトントワリング	花 村 慈 照 (宇部女子高等学校)
器楽・管弦楽	松 永 忠 雄 (県立下関南高等学校)
吹 奏 楽	重 広 昭 雄 (県立防府高等学校)
演 劇	西 村 司 (県立厚狭高等学校)
日 本 音 楽	中 野 靖 子 (中村女子高等学校)
吟詠剣詩舞	辛 嶋 茂 樹 (県立下関工業高等学校)
美術・工芸	岸 勤 (県立宇部商業高等学校)
書 道	荒 瀬 宏 (県立防府高等学校)
写 真	環 乃 琢司郎 (県立岩国高等学校)
囲 碁	川 崎 長 門 (県立徳山高等学校)

(事務局)

事務局 長	窪 田 恵 (県立山口中央高等学校)
総 務	甲 田 俊 夫 (")
庶 務	中 邑 立 夫 (")
会 計	古 屋 元 子 (")

平成2年度
山口県高等学校文化連盟集録
「高文連」

編集・発行 山口県高等学校文化連盟事務局
〒753 山口市中国町2-8
山口県立山口中央高等学校内
電話0839-32-0818
印 刷 A&C-CREATE co.,ltd.
〒753 山口市中国町1-3-106 電話0839-25-0757

